

令和6年（2024）2月19日
「近畿会様 文化講演会」
（参 考 資 料）

大阪府域及び京都府域における 自然災害伝承物と伝承文化



NPO法人都市災害に備える技術者の会会員
辻 謙一
（元 京都府建設交通部 土木技術職員）

最近も令和6年能登半島地震など多くの自然災害が頻発していますが、被害を受けられた方々には、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い生活再建、復旧、復興をお祈り申し上げます。

「NPO法人都市災害に備える技術者の会」とは

○ 設立趣旨

阪神・淡路大震災などの巨大災害が発生したとき、行政能力を超えたニーズや救援・支援 ニーズがあることを体験し、土木・建築・都市計画・地盤工学などの多様な専門家・実務家が結集し、防災啓発活動を推し進め、減災へとつないでいくことの大切さも再認識したことにより、平成16年（2004）に内閣府の認証を得た、行政と市民の皆様とをつなぐ中間組織。

○ 主な活動内容

防災、減災対策の「研究」及び「啓発活動」
災害時 要配慮者に対する防災・減災を実現するための「提案」
防災・減災イベントへの「参加」及び講演会や研修会等の「開催」

※直近では、

令和5年（2023）11月11日に弁護士をお招きして、
「宅地造成及び特定盛土等規制法の施行と課題」についての市民向け
講演会を実施（ドーンセンター）

○会員 理事長、理事、監事等

地質調査会社相談役（地盤工学）

元国土交通省職員（本省都市局補佐、砂防事務所長等）、

京都市職員（土木）、京都府職員（土木）、

元ゼネコン職員（土木）、元阪神高速道路公団職員（土木）、

元自治体職員(土木・建築等)など

○顧問 向井 通彦 前大阪府泉南市長 技術士

河田 恵昭 学関西大学 特別任命教授人と防災未来センター長

室崎 益輝 神戸大学 名誉教授

■自然災害伝承碑（大阪府域・京都府域）については、

本NPOのHPにて公開中 <http://toshisaigai.net/>

○連携組織

災害時連携NPO等ネットワーク

（会長 牧紀男 京都大学防災研究所教授、事務局:京都府）

項目一覧

1 自然災害伝承物への関心

- 1-1 私なりの自然災害伝承物の定義**
- 1-2 見つけ方・探し方と現地調査**
- 1-3 自然災害の伝承行事と伝承文化**

2 地域別の自然災害伝承物

- 2-1 大阪府域**
- 2-2 京都府域**

3 自然災害伝承物と伝承文化

- 3-1 安政南海地震**
- 3-2 室戸台風**
- 3-3 昭和28年水害**
- 3-4 堤防決壊の地の自然災害伝承物**
- 3-5 大阪市の水防碑**

4 珍しい自然災害伝承物

5 まとめ

（表紙画像は、大阪市立九条東小学校 室戸台風暴風水害記念誌レリーフ）

1 自然災害伝承物への関心

1-1 私なりの自然災害伝承物の定義

⇒国土地理院の定義

「過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害の情報を伝える石碑やモニュメント」

⇒国土地理院の取組

◇背景と目的

昔から被害を受けるたびに、先人はそのときの様子や教訓を石碑やモニュメントに刻み、後世の私たちに遺してきた。

災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、これら自然災害伝承碑の情報を地形図等に掲載し、過去の自然災害の教訓を地域の方々に伝え、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指す。



地図記号は、記念碑の記号に碑文を表す縦線を加えた形。

国土地理院は令和元年（2019）年3月15日、新しく「自然災害伝承碑」の地図記号をつくり、掲載することを決めた。

新しい地図記号ができるのは、平成18年（2006）の「風車」と「老人ホーム」以来13年ぶり。同年から地図に反映された。

⇒広島県坂町に建つ自然災害伝承碑

平成30年（2018）7月の西日本豪雨は中国・四国地方を中心に広い範囲に被害をもたらした。

広島県の坂町小屋浦地区では、天地川（てんちかわ）で土石流が住宅地を襲い、15名が亡くなった（広島県資料）。

ところが、小屋浦地区には、100年以上前の明治40年（1907）に発生した土砂災害を伝える自然災害伝承碑が残されていた。

しかし、この石碑の内容は住民に十分に伝承されておらず、西日本豪雨時に坂町が発令した避難勧告（当時）が出されて2時間20分後までに避難した方の割合は21.8%に止まり、再び多くの犠牲を出す結果となった。

これを踏まえ坂町ではこの石碑の隣に、西日本豪雨の被害の状況に加えて、明治40年、昭和20年、昭和40年の坂町の災害履歴を記した新たな自然災害伝承碑と、西日本豪雨時に土石流で流出した巨石を設置し、「災害から自分の身を守るためには、早めの避難をすることが最も重要」と説明を刻字している。また、「災害伝承ホール」が建てられた。



碑文要旨

「今までかつてなかった大雨のために谷の水はあふれ土砂が荒れくるうように流れた。

このため一瞬にして家屋の四十三戸はつぶれ命を失った人四十四人、小屋浦地区の悲惨な状況は言いあらわすことができないさまで手をこまねいてなげくのみであった。」

過去から広島県坂町に設置されている石碑

国土地理院HPから

「一瞬にして」がキーワード

また類義語「瞬時にして」、「瞬く間に」が多用されている

◇国土地理院地形図への掲載数

令和元年（2019）に開始。この時は、158基でスタート。その後逐次追加公開され、令和5年（2023）12月末時点の公開数は 全国591市区町村2068基。

◇（一財）国土技術研究センター様の「災害の自分事化協議会」の設置と災害伝承登録制度⇒ご指導をいただきたい旨、事務局様あて依頼した。

◇私なりの自然災害伝承物の定義

自然災害伝承碑における「過去の自然災害を伝える」という部分を重要とするならば、防災の視点上、必ずしも石碑やモニュメントに限定する必要はないともいえる。

災害で生き残った樹木、植え替えられた樹木、断層活動よる地表のズレ、火山の噴火による地層を保存した遺構なども、同等に災害を伝承する機能を持っている。

自然災害を伝承する機能を持つものを広くとらえるべく、碑だけでなく遺構などを含めたものを、便宜的に「自然災害伝承物」と呼ぶこととする。

◇自然災害伝承物の種類(伝承内容による区分)

- ▼災害の規模,被害,犠牲者等の事実または被害がなかったことを明記し伝承するもの、また、被害がでなかったことを伝承するもの
- ▼犠牲者又は人命救助のために犠牲になった方を鎮魂するもの
- ▼復興に技術又は資力等で尽力した人を顕彰するもの
- ▼施設の被災と復旧の事実を伝承するもの

(伝承物の形態による区分)

(1)自然物である災害の痕跡

- ①地震による隆起（例：1703年 元禄地震 房総 野島岬）
- ②目に見える断層（例：1927年 北丹後地震 郷村断層）
- ③噴火による泥流の跡（例：1783年 浅間山噴火）
- ④洪水の決壊口の跡（例：1952年 カスリーン台風 利根川 現 加須市）
- ⑤津波で内陸に運ばれた津波石（例：1771年 八重山地震 沖縄先島諸島）
- ⑥液状化の剥ぎ取り地盤展示（例：1586年 天正地震 清須城）

(2)人為的作成物

- ① 保存された被災した建築物、構築物
- ② 被災後に整備された防災施設や復旧・復興が反映された構造物
- ③ 災害に関する文字の記載のある記念的な物（例：石碑、木板、壁書）
- ④ 災害に関係して製作された象徴的な物（例：神体、位牌）
- ⑤ 古文書での災害記録
- ⑥ 災害の状況の記録絵（例：濃尾地震の浮世絵）
- ⑦ 地域の災害に関する伝承、言い伝え、説話
- ⑧ 地域の災害に関する伝統的行事
- ⑨ 災害の記録や体験談
- ⑩ 現在時点で災害に関する物を収集して展示しているもの（例：災害記念館）

また，自然災害の種類に応じ水害，暴風，地震，津波，高潮、疫病などによる被害としても区分できよう。

1-2 見つけ方・探し方と現地調査

①存在を知る

図書館・資料館等調査

（65歳からフルタイムから、週3日勤務になり、時間に余裕ができた）

知人や小学校の先生からの情報

ネットからの情報（地理院の登録分は簡単だが、それ以外は困難）

川沿いの寺院、神社を任意に探索

②現地に出向く（これが、なかなか見つからない）

地域の方にお聞きする（役所・郵便局）

迷っても何とか探し出す

道路沿いに石碑標識がある箇所は稀有
（敦賀市161号沿いの水害碑は地元有志
が標識設置・駐車場も有）

③石碑の発見

おまいり、碑文を読む、石碑に触れる
難しい文字の羅列のため、解読困難
な場合が多いので、説明付きの看板が
あれば安心

④発見後

地理、地形、地域の文化歴史を深堀
調査、関連石碑の有無を調査



1-3 自然災害の伝承行事と伝承文化

◇防災上、最も大切なこと

先人たちの災害の犠牲や被害を教訓として、継続的に学び、育て、地域が一体になり、後世にも残し、万一発生する災害においても犠牲や被害を最小限にできるよう、将来に向けて発信、共有していく。

⇒自然災害伝承物は防災のひとつの手段。自然災害伝承物の背景には地域の人々の無限の伝承文化が盛り込まれている。この背景に思いを巡らせることが現地調査の醍醐味。

◇石碑を作られることの労苦

将来の世代に、強い伝承意志でもって、石碑に刻んでまで、史実と教訓を残そうとされた先人たちの努力・労苦・負担はいかほどばかりであったか、機械も少ない時代、想像すらもできない。

石場探し、石の切り出し、石の運搬、石の加工、碑文の作成、碑文の彫刻、建立場所の選定、石碑の基礎、建立、人選、費用負担調整――

⇒強いリーダーシップを発揮できる方や資産を寄附をされる方、危険な役務を提供された方がおられたのでは。

2 地域別の自然災害伝承物

2-1 大阪府域

◇大阪府	箇所数
安政南海地震-----	6
淀川水害(明治18年)-----	29
淀川水害(その他)-----	10
大和川水害-----	4
寝屋川水害-----	4
室戸台風(学校内)-----	17
室戸台風(その他)-----	20
昭和10年水害-----	1
水防碑(大阪市内)-----	14
阪神・淡路大震災-----	6
火 災-----	1
東日本大震災-----	1
疫 病-----	2
分類困難・その他-----	25
計	140

※「その他」とは寺院等敷地内

※概ね区役所単位

大阪府域の地理院登録箇所は、19箇所 令和5年（2023）12月末時点。

※地震等の正式名称は気象庁が命名されるが、一般的に使用されている名称を記載している。

例 「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」⇒「阪神・淡路大震災」

2-2 京都府域

◇京都府

淀川水害(明治18年)-	-----1	
丹後大震災-----	39	
室戸台風(学校内)-----	8	
室戸台風(その他)-----	10	※「その他」とは寺院等敷地内
昭和10年水害-----	5	
亀岡平和池水害-----	3	
昭和28年水害-----	17	※同年の台風13号水害も含む
由良川水害-----	20	※水系含む(昭和28年水害は内数)
火 災-----	8	
疫 病-----	1	
分類困難・その他-----	26	
計	138	

京都府域の地理院登録箇所は、25箇所 令和5年（2023）12月末時点。

3 自然災害伝承物と伝承文化

3-1 安政南海地震

◆災害の概要

- 安政元年（1854）11月4日午前9時頃に東海・熊野海岸沖を震源として起きた発生した「安政東海地震」の約31時間後の、翌日11月5日の午後4時頃に紀伊水道・四国南方沖の海域を震源として起きた地震。
- 「安政東海地震」と併せて、伊豆から四国までの広範な地帯に死者数千名、倒壊家屋3万軒以上という被害をもたらした。
「安政東海地震」と「安政南海地震」とは、引き続いて起きる巨大地震のペアとして知られている。
- いち早く危険を知らせて津波から村人を救った和歌山県の「稲むらの火」の逸話はこのときのもの。

◆自然災害伝承物

○大阪市 浪速区 大正橋東詰

○大阪市 天王寺区 四天王寺

●大阪市 生野区 舍利尊勝寺

○堺市 大浜北町 擁護壘（ようごじ）

●大阪市 此花区 安政三年海嘯溺死者各位之霊

●大阪市 西区 和光寺（言い伝え）

※箇所名に記載の「○」は地理院地図登録済 「●」は未登録 （以下 同）

○大阪市 浪速区 大正橋東詰 津波記



←160年以上続いてきた碑文への
「墨入れ」
NHKのHPから引用



石碑にはいつもお花が生けられている



石碑の隣接地には「津波記念碑備品倉庫」も配置。

石碑の維持管理のための備品倉庫が置かれており、とても珍しい。

(碑文要約)

○その昔、宝永4年(1707)10月4日の大地震の時も、小舟に乗って避難したため津波で水死した人も多かったと聞いている。長い年月が過ぎ、これを伝え聞く人はほとんどいなかったため、今また同じように多くの人々が犠牲となってしまった。

○今後もこのようなことが起こり得るので、地震が発生したら津波が起こることを十分に心得ておき、船での避難は絶対してはいけない。また、建物は壊れ、火事になることもある。お金や大事な書類などは大切に保管し、なによりも「火の用心」が肝心である。川につないでいる船は、流れの穏やかなところを選んでつなぎ替え、早めに陸の高いところに運び、津波に備えるべきである。

津波というのは沖から波が来るというだけではなく、海辺近くの海底などから吹き上がってくることもあり、海辺の田畑にも泥水が吹き上がることもある。今回の地震で大和の古市では、池の水があふれ出し、家を数多く押し流したのも、これに似た現象なので、海辺や大きな川や池のそばに住む人は用心が必要である。

○津波の勢いは、普通の高潮とは違うということを、今回被災した人々はよくわかっているが、十分心得ておきなさい。犠牲になられた方々のご冥福を祈り、つたない文章であるがここに記録しておくので、心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい。

安政2年(1855)7月建立

（碑文 原文）

大地震両川口津浪記石碑

（東面）

大地震両川口

于時嘉永七甲寅年六月十四日子刻頃大地震。

市中一統驚き、大道川端にミ、ゆり直しを恐れ四五日心もとなふ 夜を明しぬ。伊賀大和けか人多しとなん。同十一月四日辰刻大地震。前二恐れ明地に小屋懸、老少多く小船に乗。翌五日申刻大地震。家崩れ出火も有。恐敷有様漸治る頃、雷の如く響き、日暮頃海辺一同津波。

安治川八勿論、木津川別而はけ敷、山の如き大浪立、東堀迄泥水四尺斗込入、両川筋に居合す数多の大小船碇綱打きれ一時川上へ逆登る勢ひに、安治川橋、亀井橋、高橋、水分、黒金、日吉、汐見、幸、住吉、金屋橋等悉崩れ落。

尚大道へ溢る水にあ八て逃迷ひ、右橋より落込も有。大黒橋際二大船横堰に成候故、川下込入船、小船を下敷に弥か上乘懸、大黒橋西、松ヶ鼻南北川筋一面暫時二船、山をなして多く破船。川岸の掛造り納屋等大船押崩し、其物音人の叫ぶ声々急変にて助ヶ救ふ事あた八す。忽水死けか人夥敷。船場島内迄も津浪寄せ来るとて、上町へ逃行有様あ八たゝし。

今より百四十八ヶ年前、宝永四丁亥年十月四日大地震之節も、小船二乗、津波二て溺死人多しとかや。年月隔て八傳へ聞人稀なる故、今亦所かはらず夥敷人損し、いたま敷事限なし。後年又計かたし。

(南面)

津浪記

都而大地震之節八津波起らん事を兼而心得、必船に乗へからず。
又家崩れて出火もあらん、金銀証文蔵メり火用心肝要也。
扱川内滞船八大小二応し水勢穩成所撰繫かへ、囲ひ船八早々高く登し、用心すへし。
かゝる津波八沖汐込斗二非す。
磯近き海底、川底より吹涌。又八海辺の新田畑中二泥水あまた吹上る。
今度大和古市池水溢れ、人家多く流しも此類なれば、海辺、大川、大池の
辺に住人用心有へし。
水勢平日之高汐と違ふ事、今の人能知所なれとも、後人之心得、且、溺死
追善旁、有の俣、拙文にて記し置。
願くハ、心あらん人、年々文字よミ安きやう墨を入給ふへし。

(深堀1)

「つたない文章であるがここに記録しておくので、心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい。」

調査・研究を進める中で、この石碑の素晴らしい文を作成された方は、京都・大行寺（だいぎょうじ・仏光寺の北東）の開祖の高僧、信暁（しんぎょう 1774年－1858年）と判明。



京都の大行寺を訪問。



信曉により創建された大行寺内の 「佛足跡」

佛足跡は安政3年(1856)に信曉により建立されたが、災火のため粉碎し昭和62年(1987)に原図を基に復元。



信暁は博覧多識で知られ、

『山海里』

という、世の中の様々な事象について経などの記述を紹介しながら解説した書物を著している。

石碑の文章とほぼ同文が、この『山海里』にも掲載されている。

京都大行寺の開基は、「勅許上人位権少僧都正定閣信暁学頭」で、文政4年（1821）12月25日京都高倉西奥之町の月見御殿（豊臣秀吉が月を賞した御殿）跡に建立された。

その後、嘉永6年（1853）12月2日当地に移された。

元治元年（1864）の兵火等度々の災火により焼失し現在の本堂は昭和4年（1929）6月30日に再建された。

⇒大阪の石碑が京都と繋がった。

(深堀2)

「今度大和古市池水溢れ、人家多く流しも此類なれば、海辺、大川、大池の辺に住人用心有へし。」

この「今度」「大和古市池」とはどこかが気になり現地を訪問した。

奈良市域の南部(奈良駅の南東部)に位置するようだが、平尾池はじめ、中小の池、また、埋め立てられた池もあると思われることから特定は困難であった。

ただ、安政元年(1854)の伊賀上野地震の様様を記載したと言われている

「山城勢州大和三河江州越前 聞書 大地震并二出火の次第」

において、

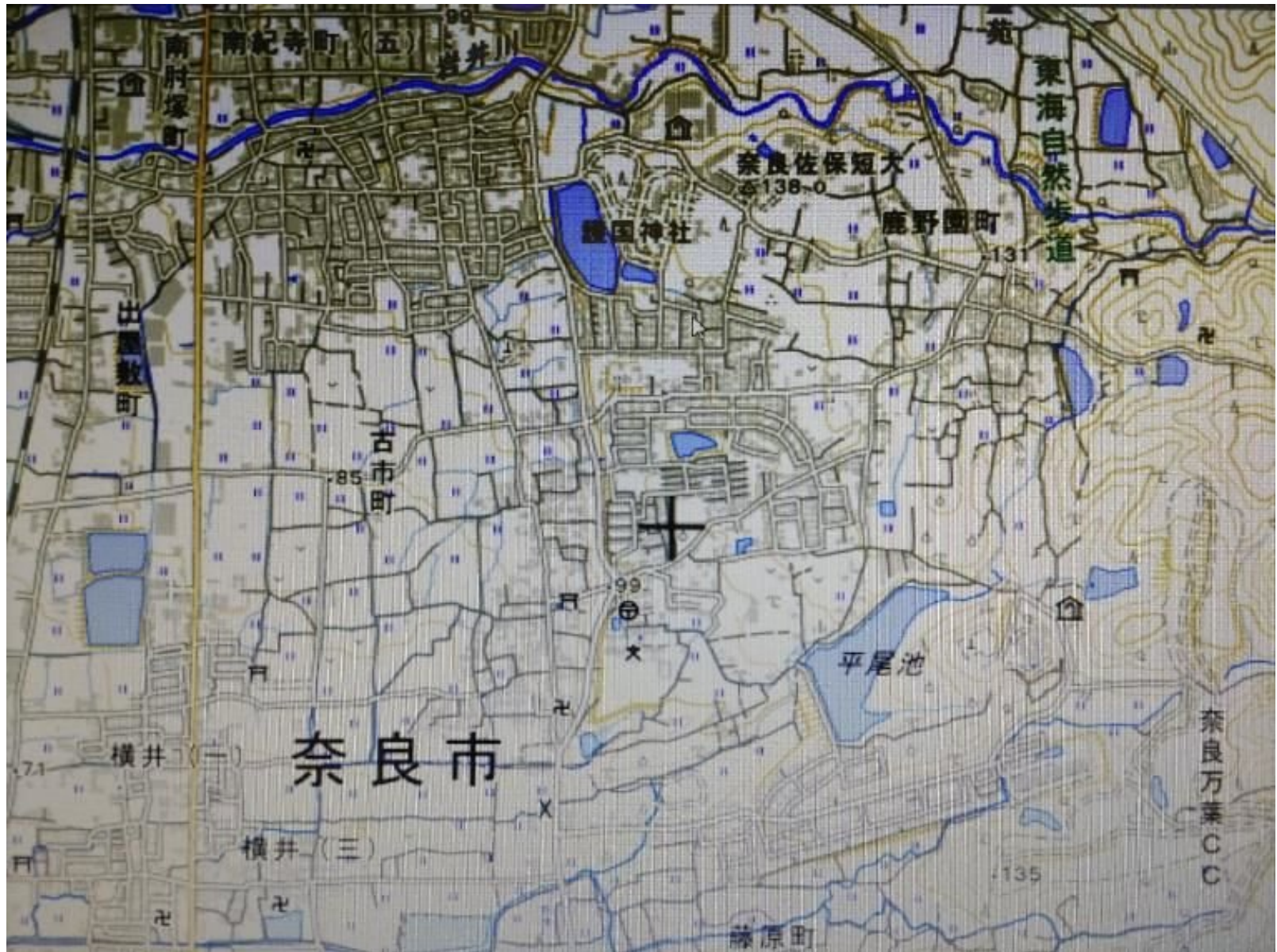
「和州古市、同日同刻の大地震にて池われ人家多分くづれ死人六十七人けが人数しれずのこる家数三軒ばかりよりこれなく義に御座候」とある。

さらに、奈良県立図書館「藤田祥光筆写文書」において、

「古市村は家数百三十軒ばかりのところ、大地震で池二か所の堤が切れ、大地震で倒れた家の下敷きになっているその上へ、池の水、高さ八尺(2.4m)ばかりが出て人を損じた。六十八人が死んだ」とある。

⇒石碑に記載されている「大和古市池」の場所の特定までには至らなかったが、大阪の石碑が伊賀上野地震と繋がった。

また、溜池の堤体の危険性をも伝承していると感じた。



国土地理院地図HPから引用



⇒奈良の古市を訪問し、溜池を探しに行った。

（画像は平尾池）

池の堤体からはかなり下方に集落が見られた。地元の方から、

「平尾池は今は灌漑用としては使われていない」

とのことであった。



⇒道に迷っていると、地元の方からの案内で、平尾池の北側に、
「平尾池普請之碑」
を見つけることができた。
「旱災」の文字が刻まれている。

(碑文 原文)

平池之山距古市不遠之山間水脈纔通甲寅
之春村吏請下池焉以防旱災
官許之大司農深井君司農山本久世三宅
君使署吏廣瀬中川森三子掌其事数年
而成曰其池曰平尾村人相慶曰今後可無
旱魃之患又祀天女ヲ池畔以禱水福云
自非四君恤民之深輿三子及邨吏之能奉
其意恐不能為此舉也邨吏等請勒石以傳
諸不朽故余述其要伝爾

安政五年戊午夏六月
古市医生信尺撰並書く

●大阪市 西区 和光寺（言い伝え）



（碑文 背景）

「為溺死」

あみだ池に所在する寺であり、智善上人が建立したところから蓮池山智善院と号した。
落語にも出てくる寺院。

寺院には、海難事故による遭難船をつらねた碑や安政大地震の犠牲者に対する慰霊碑など、この地が海浜部に近い地域であったことを示す遺物がたくさん見られたが、長年の風化と空襲の火災による剥落が進んでいる。

言い伝えの域は出ないが、「安政南海地震における史跡である」とお寺の方からお聞きした。



和光寺は元禄12年（1699）に信濃の善光寺から全長約45センチの金銅阿弥陀仏を本尊として移し祀った浄土宗の尼寺

●大阪市 此花区 安政三年海嘯溺死者各位之靈



**(碑文 背景
此花区HPから引用加筆)
安政三年海嘯溺死者各位之靈**

此花区内における江戸時代最後の新田開発請負人、常吉庄左衛門の没後50回忌にあたる明治40年(1907)に建立された。

併せて安政元年(1854)の海嘯（津波・碑面には安政3年となっている）による犠牲者を祀っている。

この辺りは、大正期ごろまで美しい松が生い茂り「千本松」といわれていた。



**石碑近くには
一級河川淀川の起点
標示もあつた。
此花区役所で、
「淀川距離標0.0k訪問証明書」を
いただいた。**

3-2 室戸台風

◆災害の概要

■「台風」の語源

「台風」（当初の表記は「颱風」）という言葉は、中央気象台の第4代台長に就任された岡田武松氏が、明治40年(1907)に学術的に定義された。大災害をもたらす恐ろしい気象現象であったにもかかわらず「大風」「暴風」など、呼び名に統一性のなかったが、昭和初期に「颱風」という共通の呼称・表記が国民に定着。

昭和31年(1956)「同音の漢字による書きかえ」の制定により「台風」となった。気象庁により「顕著な災害を起こした自然現象の名称」として、正式に名称が定められた最初の台風は、昭和29年の台風15号「洞爺丸台風」。

しかし、公的な名称ではないが、「室戸台風」は公的報告書等でもその名が使われており「初めて名前が付いた台風」と言われている。

■日本の気象観測 明治8年（1875）開始

天気図による暴風警報の発表 明治16年（1883）開始

■昭和9年(1934) 9月21日に高知県室戸岬西方に上陸し、上陸時の気圧が911.6ヘクトパスカル、風速60m/sを記録。

当時の日本の観測史上では史上最強とも言える強い規模で、四国から近畿を通過し若狭湾に。

■上陸後も台風の勢いは収まらず、そのまま北北東に進み続け、23日に日本海側へ抜けるまで通過地域に強風と豪雨で被害を与え続け、大阪湾付近では、強風と大雨に加えて高潮の被害が重なり、著しく大きな被害を出した。

- 午前8時頃に大阪と神戸の間に上陸し、最大瞬間風速60m/sという極めて強い風を伴い、高潮の規模は4mを超えたと記録。大阪湾周辺には海水の流入も発生し、地盤沈下も生じた結果大阪城付近まで水が及んだ。
大阪湾付近で溺死してしまったとされる死者数は1,900人以上と推定。
日本全体の被害は死者数2,702人、行方不明者数334人、そして負傷者数は約15,000人。破壊された建物数は92,000戸を超えた。
- 文化9年(1812) 建造の四天王寺の五重塔と仁王門は、この台風で全壊。
暴風により当時の木造校舎だった学校での被害も顕著。
- 当時の暴風警報は、船舶、港内の警備等海上活動に対する安全対策が主目的。
暴風警報は風速10m/秒以上になった場合に発令。この程度では陸上には殆ど損害を与えない警報が頻繁出されたので、市民が警報に注意を払うことが少なかった。
当時大阪では気象台支台と測候所の二つがあり、共に予報を出しており、いずれも正確に予測できなかったことが市民の警報に対する意識を低くしていた可能性がある。室戸台風の折には、警戒もせずいつも通りの台風と楽観して被害にあわれてしまった。
室戸台風の時には2度警報が発令されていたが、警報そのものの発令を知らなかった被害者も多かったと推測される。
- この室戸台風を契機に、中央気象台では以後、警報の前段階として、今の注意報に相当する「気象特報」を発表するようになった。

◆自然災害伝承物

大阪府域 室戸台風(学校内) 17

○大阪市 城東区 今福小学校

○大阪市 城東区 聖賢小学校

○大阪市 西区 九条東小学校 暴風水害記念誌

●堺市 三宝小学校

●吹田市 豊津第一小学校

●吹田市 豊津第一小学校 レリーフ

●吹田市 豊津第一小学校 記念講演会 吉岡藤子訓導顕彰碑
(顕彰碑所在地は、宇部市立厚南小学校内)

●茨木市 大阪府立春日丘高等学校

●吹田市 岸部第一小学校

●大阪市 生野区 プール学院

●高槻市 如是小学校

●高槻市 芥川小学校

●東大阪市 弥刀小学校

●大阪市 住吉区 住吉小学校

●大阪市 生野区 北鶴橋小学校

●守口市 守口小学校

●豊中市 熊野田小学校

大阪府域 室戸台風(その他) 20

- 大阪市 西淀川区 稗島尋常小学校近傍
- 門真市 大和田小学校 正門外
- 大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔
- 大阪市 城東区 榮照寺
- 大阪市 西淀川区 「外島保養院」跡地
- 大阪市 西淀川区 外島保養院 中野婦長殉職碑
(殉職碑所在地は、岡山県瀬戸内市 邑久光明園内)
- 枚方市 長安寺
- 寝屋川市 水本墓地
- 寝屋川市 打上墓地
- 堺市 関西大風水害殉職者慰霊碑
- 堺市 十輪院
- 堺市 宝珠院
- 堺市 月蔵寺
- 堺市 経王寺
- 大阪市 西区 関西風水害浸水深 (現存せず)
- 大阪市 西区 九島院
- 大阪市 北区 鶴満寺
- 東大阪市 友井墓地
- 大阪市 生野区 生起地藏尊
- 東大阪市 殉難記念碑

京都府域

室戸台風(学校内) 8

- 京都市 東山区 京都女子大学
- 京都市 山科区 勧修小学校
- 京都市 伏見区 桃山高校
- 京都市 南区 大藪小学校
- 京都市 伏見区 向島小学校
- 京都市 右京区 西院小学校
- 京都市 左京区 養正小学校
- 京都市 伏見区 下烏羽小学校

室戸台風(その他) 10

- 京都市 東山区 知恩院南
- 京都市 右京区 高山寺
- 京都市 東山区 大谷本廟
- 京都市 上京区 妙蓮寺
- 八幡市 善法律寺
- 京都市 東山区 大谷本廟二天門
- 京都市 伏見区 向島西堤共同墓地
- 京都市上京区 西陣小学校 (廃校)
- 福知山市雲原 雲原砂防
- 京都市 南区 烏羽地藏

○寝屋川市 水本



(碑文 原文)

昭和九年九月二十一日午前七時五十分近畿地方二大
颱風襲來シ本村小學校新築二階建て校舎倒潰シ學童
死者十三名ノ犠牲者ヲ出シタリ翌二十二日大字燈油
七名ノ個人葬ヲ當墓地二行ヒ超ヘテ十月二十一日小
學校校庭ニ於テ校葬ノ禮ヲ以
ツテ合同葬ヲ營マル参列者知事代理以下二千余名實
ニ前古未曾有ノ盛典ナリキ
茲に遺族相謀リ一碑ヲ建テ永久ニ記念セシントス
昭和十年二月二十一日 建之

「ゆく里なく花の蕾ちらしたる風うらみつつみ魂安
めむ」

(碑文 要約)

昭和9年(1934)9月21日午前8時、大阪に上陸した
室戸台風では、風速60mの強風と満潮が重なった
ことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等
の被害をもたらした。寝屋川市では、当時の水本尋
常高等小学校の新築2階建校舎が強風で倒壊し、児
童13名が亡くなった。この碑は、当時の燈油地域
出身者7名の慰霊碑。



●大阪市 北区 鶴満寺



(碑文 背景) 風害慰霊碑

室戸台風で、倒壊した校舎の下敷きになり亡くなった大阪市立豊崎第四小
(現豊崎東小) 児童19人の冥福を祈り
建立された。

大阪市内にある240校の学校の古い木
造校舎180校がすべて被害を受けた。

暴風警報で学校が休校になったのは室
戸台風が端緒である。

現地では、石碑の碑文の説明
チラシが配置・配布されてい
た。



(碑文 背景)

風害慰霊碑

室戸台風で、倒壊した校舎の下敷きになり亡くなった大阪市立豊崎第四小（現豊崎東小）児童19人の冥福を祈り建立された。

大阪市内にある240校の学校の古い木造校舎180校がすべて被害を受けた。

暴風警報で学校が休校になったのも室戸台風以降である。

なお、本堂の高さは淀川に近く洪水から守るために、石垣でかさ上げされている。

●堺市 三宝小学校



(碑文 原文)
顕彰碑 故 栗山優先生
昭和九年九月室戸台風の際児童を助けて殉職

●大阪市 住吉区 住吉小学校



(碑文 背景)

室戸台風は、当時の木造校舎を倒壊させ、18名の子どもたちの尊い命を奪った。住吉小学校ではこの悲劇を教訓に、自然災害から身を守る防災教育を進められている。

犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように地域・児童からデザイン公募し、創立100周年にあたる平成20年（2008）9月に、この室戸台風慰霊碑を住吉小学校内に建立された。



被災慰霊祭80周年記念誌も
発行された。

●京都市 伏見区 下鳥羽小学校



(碑文 原文)

風災殉難碑

伯爵清浦金吾 書

(殉難児童20名の氏名も記載)

昭和十年九月建立

昭和九年九月二十一日午前九時頃
突然におそった大風（第一室戸台
風）のため校舎が倒れたいけな
低学年児童が下敷きとなり死者二
十名重軽傷者七十九名を出す大惨
事があつた

その場所は是より北東二百五十米
校舎中央北側廊下であつた後近く
に殉難碑が建てられたが、学校移
転に伴いこの地に移す

昭和五十一年十一月一日



教頭先生からの説明では、

「平成25年（2013）9月の台風18号による鴨川左岸堤防での漏水、一部での越水により体育館が浸水し、体育館を新しく建て替えました」とのこと。

現地付近の工事看板に、この台風の被害について記載。

この看板の表記そのものも、近年の災害ではあるが、自然災害を伝承物であろう。

●京都市山科区 勸修小学校



(碑文 背景 山科区社会福祉協議会HPから引用)

「勸修小学校 奇跡の一日 1934 0921
その時 何が!? 700名の命は こうして救
われた！」鏡山次郎先生の講演会

昭和9年（1934）9月21日に襲来した「第一室戸台風」は、山科にも大きな被害をもたらしたが、勸修小学校では、校長の時機を逸しない正確な決断と、それを迅速に遂行した教職員集団の力が、700名の児童の命を救った。

鏡山次郎先生は、犠牲者が出てしまった災害には慰霊と風災を伝承する記念碑はもちろん不可欠であるが、犠牲者を出さなかったことについても、風災を伝承する記念碑が必要ではないか、と話されたことが印象的。

●東大阪市 殉難記念碑



(碑文 原文)

殉難記念碑

盾津村青年團古箕輪支部建

故大西勝君天資明朗卒小學校享
職於西六郷校餘暇學於城東商業
校日夜精勵偶逢昭和九年秋稀有
風害校舍將倒壞也救出兒童十数
名而殉職時年十六村民憐其情且
慕其德胥謀建碑以傳諸不朽云爾



昭和十年九月二十一日

從四位勲三等成田軍平撰書



(碑文 背景)

当時盾津村には、「西六郷」、「北江」、「東六郷」の三校の小学校があり、現在の弥栄小学校の前身である「西六郷小学校」の校舎が損壊し児童2名、給仕の方1名が亡くなられた。

●吹田市 豊津第一小学校 室戸台風犠牲児童・訓導の教材と伝承行事

昭和8年（1933）校舎が現在地（現江坂町1丁目）に移転したが翌昭和9年（1934）9月21日の室戸台風により南校舎が倒壊し、児童51名が犠牲に、さらに二人の女性訓導が児童をかばうために殉職。

校内敷地の石碑とともに、校長室に「風災遭難教職員児童霊」の祭壇とレリーフが保存。また、校長先生自らが児童向けの伝承テキスト冊子「ふたりのヒロイン伝説にわこ&ふじこ」を作成され伝承中。

犠牲訓導のひとり横山先生は、今の京都女子大学卒業生で、京都市大谷本廟に「関西風水害罹災学童碑」が、京都女子大学入口には「師弟愛の像」が建立。





京都市 東山区 大谷本廟



「関西風水害罹災学童碑」

大阪府豊能郡豊津尋常高等小学校では木造2階建ての校舎が倒壊し、51人の生徒と2人の女性教師が死亡する惨事となった。

死亡した女性教師のひとり横山仁和子先生は、3人の学童を身体の下にかばい自らの命と引き替えに守った。

翌年9月21日に室戸台風の犠牲者を悼んで大谷本廟で一周忌の追悼法要が営まれ、「関西風水害罹災学童碑」の除幕式が行われた。

この碑は、日曜学校関係者を中心に基金を募って建立された。



京都女子大学の前身である京都女子高等専門学校の卒業生横山仁和子先生が二人の児童を腕の中に抱きしめたまま犠牲になった。

その両腕の中には元気な子供たちの姿がある。

9月に着任したばかりの25歳の先生。

京都女子大学のキャンパス入口に建っている建学の精神を体現した人間像の「師弟愛の像」という横山先生のモニュメント。





全国PTA協議会副会長（兼大阪府PTA協議会会長）、校長先生と
校内の石碑前で



レリーフ裏と保存箱
「吉岡訓導殉職像浮彫
昭和十二年春 保田龍門 作」と記載
保田龍門は、和歌山県庁の階段踊り場の
「丹生都比売命(にうつひめの みこと)・高倉
下命(たかくらじのみこと)レリーフ」の作者でもある(現 紀の川市の御出身)





和歌山県庁内の
レリーフ
和歌山県HPから
引用

丹生都比賣命(にうつひめのみこと)は天照大神の妹君で、丹生都比賣神社(伊都郡かつらぎ町)の第一殿に祀る祭神。弘法大師空海の高野山開創にあたり、その神領を譲り渡したという伝承がある。



子ども達をかばって殉職された横山仁和子訓導と吉岡藤子訓導のレリーフ。

校長先生からのお言葉

◆学校の防災

- ・避難所になる体育館の近くに家庭科教室、トイレを設置
- ・率先して逃げること

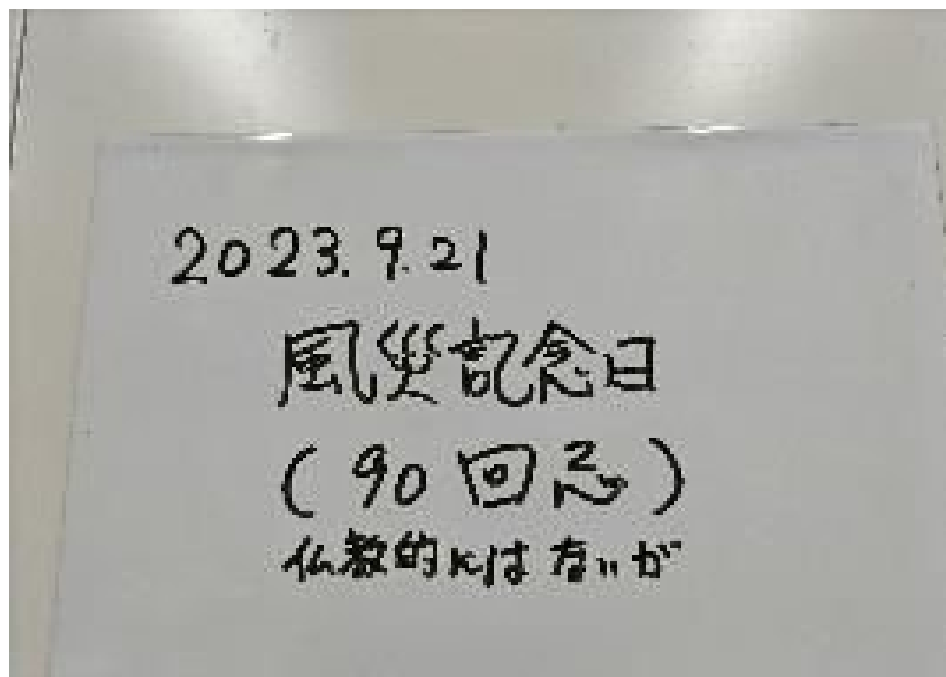
◆ひとこと

「初めて校長室に入った時、祭壇がありびっくりしました。毎日お線香を立てています。」

「災害伝承は定年後でしか本格的にはできませんな。自分も再任用校長やけど、65歳で定年になったらすること、もう考えてます。」

「学校内での浪曲師とは、あまり聞きませんが、思うことはなんでもする。」

室戸台風の校舎倒壊で若い2名の女性の先生が自ら犠牲になり児童を守ったことを、令和5年（2023）9月21日の風災記念日に校長先生が浪曲師菊池まどかさんを学校に招かれ当時の様子を演じて児童にご教授された。



↑ ラグビーが好きな有明校長
先生の直筆
⇒私にも当日参加の案内をいた
だいた。



当時の木造校舎
豊津第一小学校HPから引用



↑タオルの
はちまき姿の
校長先生



校長先生の説明とともにレリーフや訓導の画像を手にされる教諭と熱心に聞き入る児童

読売新聞記事から引用
伝承行事が記事になった。

児童命かばった教諭うたう

浪曲師菊地さん披露

吹田・豊津第一小 室戸台風で犠牲

中の子供たちが居るんですッ、はなしてはなしてーッ



浪曲師菊地さん披露

「学校が揺れてるッ、向かいの窓が割びやうやーッ」
「あかぬいッ、まどをはなれてッ」
「窓を揺さぶった木の枝が飛んで、破れ壊れて散るガラス」
9月21日、豊津第一小の体育館で、菊地さんのハリのあふれる声で、せりふの板、歌うまに聴き入る。集まったら、11年生や保護者ら約100人が聴き入り、各教室には11年生の女性教諭2人が命を落とした。

室戸台風で犠牲
吹田・豊津第一小
室戸台風で犠牲
吹田・豊津第一小
室戸台風で犠牲
吹田・豊津第一小



浪曲師菊地さん披露

「教室へもどりますー」
「そりゃアいかん、危険ですッ」
「中の子供たちが居るんですッ、はなしてはなしてーッ」
「大言堂々とともに、あア思い出の小学校は、見るも無様に崩れ行く」
古岡さんの献身的な行動は人々の共感を呼び、浪曲のレコードにもなった。演目をアレンジして持ちネタにしていたのが、菊地さんの師匠で今年7月に訃告で亡くなった京山小波瀬さんだった。

菊地さんは2003年に弟子入り後、木太を譲り受けた。被災当時を知る卒業生に話を聞いた。同書館で京山波瀬について調べた。浪曲師として研究を深め、浪曲先生教壇に生かすを仕上げた。他にも、江戸時代に津波被害を受けた人々を描いた「福むらの火」や東日本大震災を題材にした演目などを手がけている。豊津第一小で、古岡先生を被爆するのは10年に続いて2回目になる。

披露した同小6年木太裕士君(12)は「初めて浪曲を聴いたけれど、迫力や緊張感があって、災害の怖さが伝わった。ハザードマップを確認するなどして、防災の意識を高めた」と話した。菊地さんは「一生懸命に聴いてくれて、うれしかった。家族と避難場所を決めておき、備蓄品を準備する。そうしたことで、何かい」と力を込めた。

(深堀)

「校長室の保田龍門氏の石膏レリーフが作成された経過」

キーパーソンは、大阪府立修徳学院の当時の院長(3代目)で、彫刻家の保田龍門氏と知り合いの、「熊野隆治氏(山口県出身)」。

熊野隆治氏は殉職された吉岡藤子訓導(山口県宇部市出身)の知り合い。

熊野隆治氏は、保田龍門氏に吉岡藤子訓導のレリーフ作成を依頼。

保田龍門氏は「母と子」をテーマに絵画や彫刻を作成され、フランスへも留学し、和歌山県から出て堺に住んでおられた。

なお、現在の大阪府立修徳学院(柏原市)では、この犠牲訓導を教材とした教育をされている。

⇒たまたま、今の修徳学院の院長先生ともこの校長室で出会い面談できた。

⇒この出会いは犠牲訓導からの導きと感じた。

⇒吹田市の小学校と柏原市、京都府、和歌山県さらに山口県とが繋がった。

●大阪市 西淀川区

第三区連合府県立外島保養院記念碑と追悼行事



外島保養院は、現在の西淀川区中島2丁目（兵庫県大阪府境の神崎川下流域の分流である中島川左岸）の河口部、海拔ゼロメートル地帯に明治42年（1909）に開設されたハンセン病療養所。当初敷地2万坪定員300名の規模。第三区連合府県（2府10県）には、近畿及び近隣県が入っていた。

増設工事が行われ、昭和9年（1934）9月21日の室戸台風による高波により施設が壊滅、入所者173名(当時の入所者597人の約3割)、職員3名、職員家族11名、工事関係者9人の計196名の尊い命が奪われた。

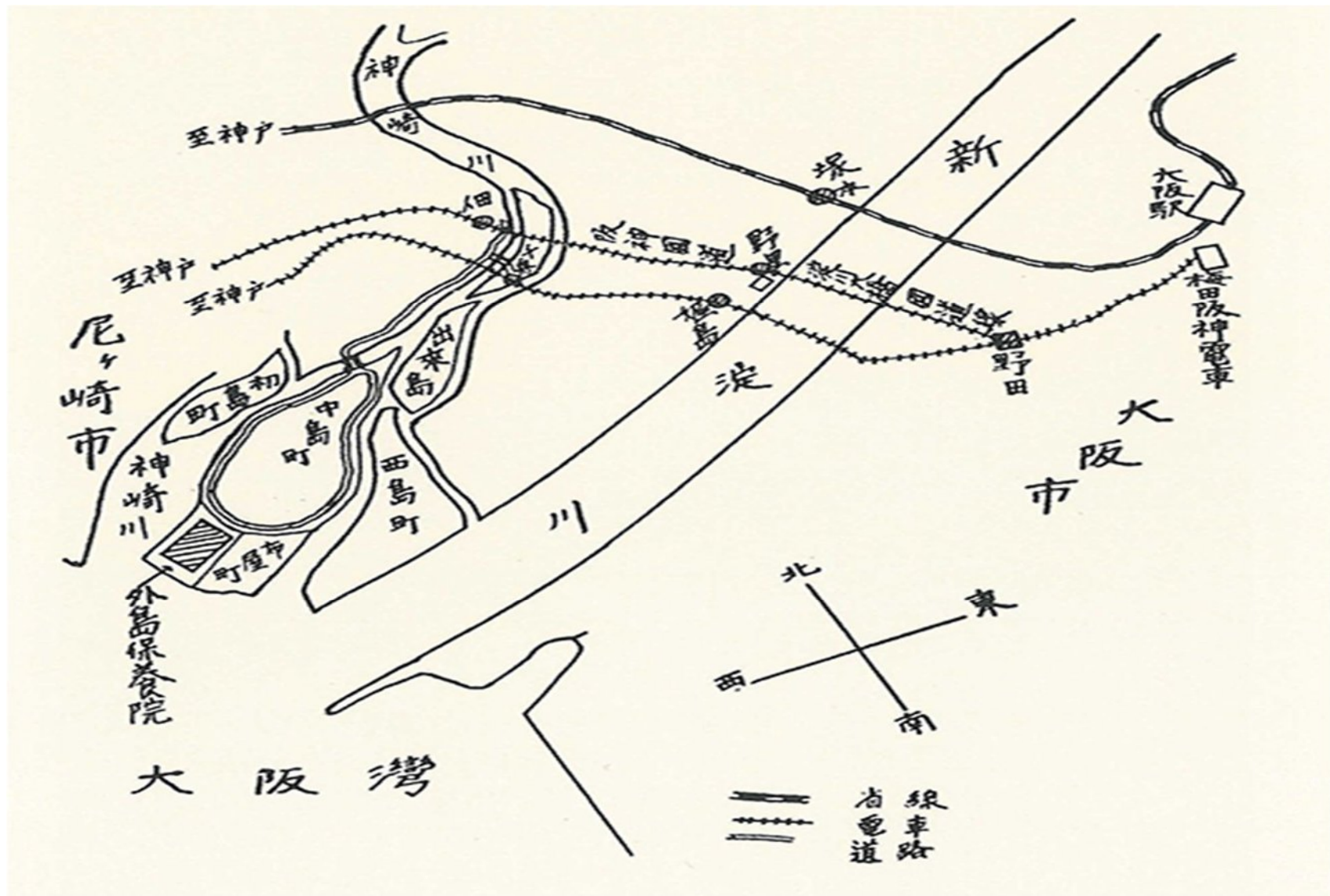


建物は現地に再建されることなく、岡山県邑久郡の長島に昭和13年（1938）に「邑久光明園」として再興。

「らい予防法」が廃止されたことを記念し国立療養所邑久光明園入園者自治会の方々が「外島保養院」跡地に平成9年に記念碑を建立され、以降毎年9月に犠牲者追悼行事が行われている。



今は、付近は物流施設が多く立地しているがバス便は少ない。



「第38回地方自治研究全国集会第7分科会
福祉、環境、農業…地域の宝を探し出せ」から引用

外島保養院記念碑

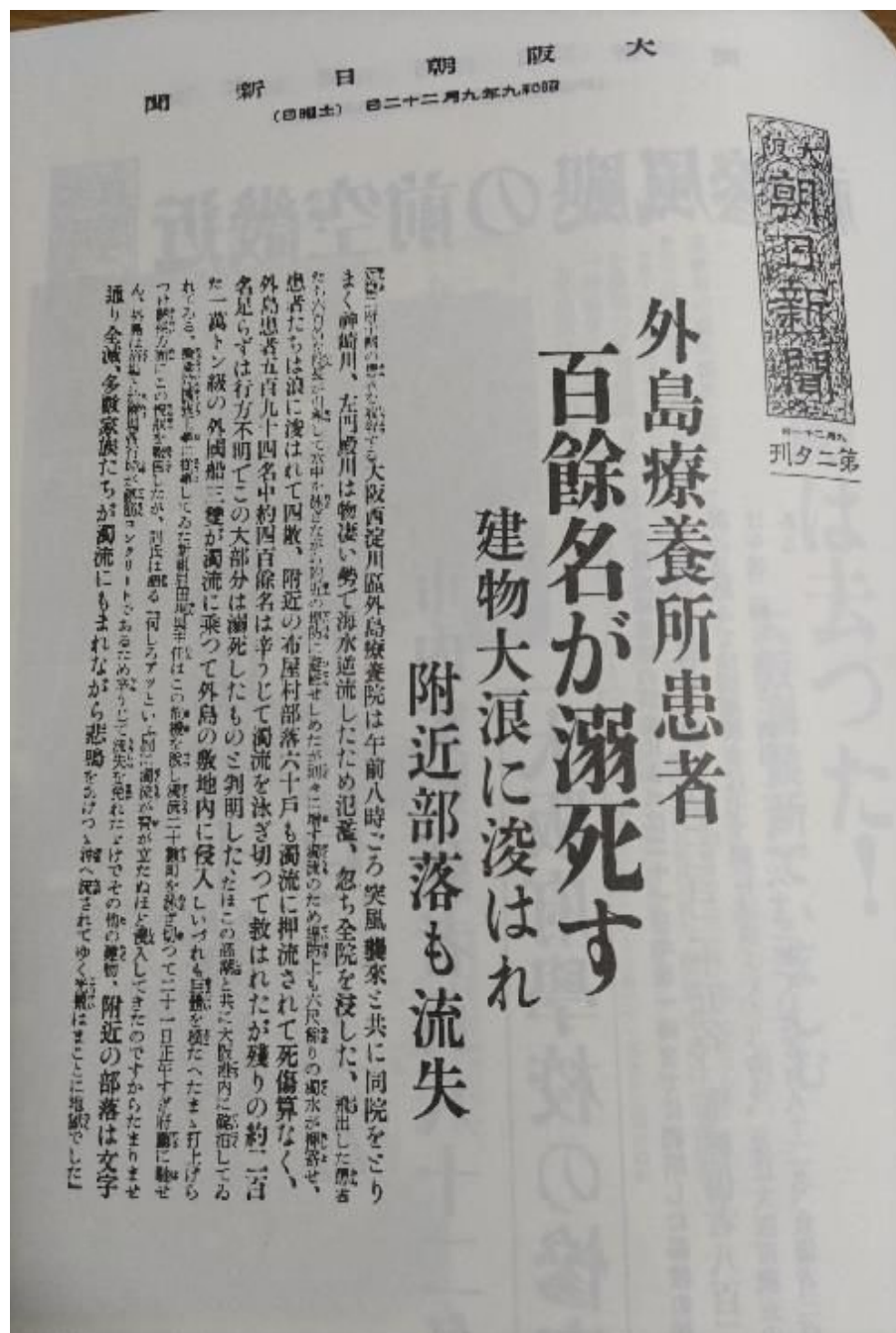
明治四十二年四月法律第十一号ニ基ヅキコノ地ニ第三区府県立「外島保養院」設立サレル

即チ 大阪府主幹ノモト京都 兵庫 奈良 和歌山 滋賀 三重 岐阜 福井 石川 富山 鳥取ノ二府四県連合ニヨル 公立ハンセン病療養所トシテ開設サレタノデアル

昭和九年九月二十一日室戸台風ノ襲来ニヨリ施設は壊滅流失 患者百七十三名職員三名職員家族十一名ガ死亡スル大惨事トナリ生存患者四百十六名ハ全国六施設ニ分散委託 昭和十三年四月岡山県長島ノ西端ニ名称ヲ光明園ト改メ復興昭和十六年国立移管 邑久光明園ト改称現在ニ至ル

平成八年「らい予防法」廃止サレル 強制収容絶対隔離ヲ根幹トシタ日本ノハンセン病対策ノ終焉ヲ記念シ外島保養院ノ日々ニ思イヲハセ茲ニ記念碑ヲ建立スルモノデアル

平成九年十一月 邑久光明園入園者自治会



←大阪朝日新聞の報道

第三区府県立外島保養院の概況

敷地面積2万坪。収容定員300名。

北西は左門殿川、西南は大阪湾で、敷地が海拔0m地帯であつたため、四方が堤防と土手で囲まれ、その上が道路となっていた。

建物敷地として、堤防と土手とに囲まれた海拔0mの敷地内の土を更に掘り、その土を盛り上げて造成し、その結果、敷地内には大きな池が数箇所できるととなり、大潮の日の干潮時以外、敷地内の水は海に流れ出ることにはなかった。

大 阪 朝 日 新 聞
（日曜） 昭和九年九月二十二日

【上】院養保島外たし壊倒
院病生回濱園樞香と



大阪朝日新聞の報道

我が身を犠牲にしてまでも入所者の救命に 全力を尽くし殉職された 「中野鹿尾（なか のしかお）」看護婦長の行動

中野婦長は、当日いち早く重病棟に出勤し、風雨におびえる病人たちを励まし、避難と決まるや、すぐさま身動きもできない病人を背負い、また、手を引いて堤防へと急ぎ、それは三度にもおよび津波の迫る中、なお、その水の中に入って行き、残されている病人を背負い、視覚障がい者の手を引いて堤防へ上がろうとした際、高波に飲み込まれ二日後に遺体で発見。

中野婦長は昭和9年（1934）年4月に就職したばかりの看護婦であつたが、遺体発見後、災害のあつた9月21日付で婦長昇格の任命を受け、殉職死亡退職に。



**中野看護婦長が患者を助けるも
殉職された悲話の絵画。**

大阪府「津波高潮ステーション」にて撮影。



被災状況

**「People / ハンセン病に向き合う
人びと」から引用**

**(深堀)「中野看護婦長が患者を助けるも殉職されたことを伝承する岡山
県長島の長島愛生園と邑久光明園の調査」**

長島沖で、クルーズ船から殉職碑を遠くに見ることができた。

**不思議なことにクルーズ船のガイドさんに石碑の場所を尋ねた時が、ま
さに、丁度この石碑が島の正面に見える場所であつた。**



**中野婦長殉職碑
邑久光明園HPから引用**



日生港からクルーズ船にて、国立療養所「長島愛生園」歴史館（岡山県瀬戸内市）へ。
 何と園内の歴史館内に、大阪での被害を詳細に記載した「風水害記念誌」が展示されていた。
 熱心な学芸員様から説明をいただいた。



室戸台風による被害状況

大阪での被害を詳細に記載した「風水害記念誌」には、室戸台風で被災した外島保養院の写真が展示されていた。

⇒大阪と岡山県長島とが繋がった。



岡山県長島の収容棧橋

昭和6年(1931) から昭和30年代半ばにかけて、長島愛生園に収容される人の多くは、故郷に別れを告げると一般の乗客とは区別された患者専用列車で岡山駅まで運ばれた後、虫明港までは護送車と呼ばれた車で移送、この内白間（うちしらま）から上陸した。

この収容棧橋は家族との別離の場所で、多くの入居者がこの場所で故郷を思っ涙した。この棧橋は入所者専用で、職員等の利用する棧橋は別の棧橋だった。島内においても隔離は徹底されていた。（現地案内板を参考）



岡山県長島にある「浪速道路」

外島保養院に入所されていた方々で台風被災で生存できた416名の方は全国の既存施設に分散委託され、このうち、うち78名は長島愛生園に仮入居という形になった。

昭和13年（1938）4月1日「第三区府県立外島保養院」は、復興施設の名称を「第三区府県立光明園」と改め、現在地（当時は邑久郡裳掛村大字虫明長島）に再建された。

長島愛生園に仮入居の方々は感謝の気持ちで、邑久光明園への再移転時に、既存の長島愛生園の入居者向けに、道路を手作業で新設され、これが、「浪速道路」と名付けられることになった。



この橋は、当時、K鉄構工業に勤務されておられ、現在茨木市に本社がある建設コンサルタント企業の社長様が御担当であったとのこと。

土木の世界は、すぐに繋がる。

昭和5年(1930)に愛生園が開園、昭和13年(1938)に光明園が復興開園して以来、長島はハンセン病を象徴する島であった。

本土から島までの距離は、わずか30m足らずであるものの社会から置き去りにされた。

昭和44年(1969)に入所者から「橋を架けよう」との声が上がり、架橋運動がスタート。以降、地元邑久町、岡山県、厚生省等との協議や署名活動、資金カンパ、国会請願等の運動が実り、昭和63年(1988)5月9日、遂に念願の「邑久長島大橋」が開通した。



折角、岡山まで行ったので、帰路は、寄り道して本竜野駅から徒歩で、揖保川の

「防災はみんなで行うもの」という意識のもと、景観と防災を両立して整備された

豊堤(広報用の豊パネル)

を見学。

これも現役の自然災害伝承物。（他に長良川、五ヶ瀬川）

●大阪市 西区 九島院(きゅうとういん)



(碑文 原文)

寛文大津波 龍溪禪師水定遺蹟
昭和九年九月大阪颱風津浪為記念建立

(碑文 背景)

山門開山龍溪禪師と寛文大津波

江戸時代初期の寛永10年（1633）池山新兵衛一吉によって開発された衢壤（くじょう）島に彼が創建した寺院であるが、後水尾天皇の信任が厚く「大宗正統禪師」の称号を賜っていた龍溪禪師(1602～1670)を招いて開山の祖と仰いだ。

龍溪禪師は中国（明）からの渡来僧隠元に弟子入りして宇治の萬福寺造営を助けた高僧。

寛文10年（1670）の8月15日に九島院では開堂法要を行うため龍溪禪師を招聘。法要中に、海亀が花を背負ってやってきた。



龍溪禪師遺蹟顕彰會 作

招聘に応じた禅師は、旬日、九条島に滞在して信者に佛法（黄檗宗）を説いていたが、同月23日、未曾有の台風が大阪湾に來襲し、当時大阪湾の陸地の先端に位置した九条島に高潮による大災害をもたらした。

しかし、龍溪禅師は高潮の來襲にも読經をして動かず、座禅をしたままの姿で激浪の中へ入寂した。

古人は、龍溪禅師を称して『九条の人柱』とよび、その不慮の死を弔い、かつその死を無駄にせぬよう祈った。



宇治市 萬福寺を訪問。

その10年後、幕府は河村瑞賢に命じ、
九条島を開削し安治川を通したが、
龍溪禅師の人柱がその動機のひとつ
になった。

九島院に「大阪颱風津浪為記念」の
石碑があるのは地理的には必然では
あるが、宇治の萬福寺と関係してい
ることが大変興味深い。

⇒大阪と宇治とが繋がった。

ご住職様からは、
「大阪颱風津浪為記念の石碑は、
龍溪禅師の顕彰とともに、室戸台風
の被害や犠牲を広く住民に知らせめ
るために台風直後に建立された」
とのこと。

(深堀)

「寛文大津波と安治川開削と室戸台風」

幕府は、天和3年（1683）に若年寄稲葉正休の配下に河村瑞賢をすえ、山城、河内の水路を巡見させ、治水工事を行うよう命じた。

翌貞享元年（1684）2月に、河村瑞賢は大阪の人たちの協力を得、九条島を直進する水路を開削し、伝法の方に曲流していた淀川末流を海に直流させ、以後市中の人工河川の浚渫改修を行った。

⇒天和3年（1683）の安治川開削（開削開始当時の名称は「新川」）と1934年の室戸台風とが、龍溪禅師の人柱の経過を通じ、251年もの時を経て繋がった。



河村瑞賢の紀功碑は、大正4年（1915）に国津橋（くにづはし）東詰めの安治川沿いに建てられ、大阪城の石垣用としていた「残念石」が使われた。

●福知山市雲原 雲原砂防



(碑文 背景)

雲原砂防関連施設群は、現在の福知山市北部の山間部に所在。当時の雲原村は度重なる水害で農地は荒廃し、収穫量も減少。

特に昭和9年（1934）の室戸台風による被害は大きく、翌年雲原村長に就いた西原亀三は、単なる復旧工事でなく抜本的な治水工事を望み、内務省技師であつた赤木正雄に施設工事計画を要請。

大蔵大臣の高橋是清に砂防工事の必要性を説き、事業予算として認められた。



赤木正雄の理想的なモデル工事計画が行われ、複数の流域（総延長約12 km）にわたって堰堤11基、床固工157基、流路工41基が配置された砂防施設群が造られた。

結果、水害抑制の効果が得られ、かつ大規模な換地・分合により耕作地が増え農業振興に寄与。施設群は、現在に至るまでその役割を維持し、この雲原砂防関連施設群は、昭和10年代のわが国農村復興の様相を具体的に示すもので、歴史的な価値を有し、国登録記念物第1号に。

(深堀)

「内務省技師であつた赤木正雄氏」は但馬のご出身であり、同じ但馬出身の河川技師の長沢忠氏にたどりついた。

長沢忠氏のご功績の石碑が大津市の瀬田川沿いの大日山内に建てられていることを知り、現地に探すこととした。山頂まで探したが見つからず断念して帰ろうとしたが、たまたま、麓にて見つかった。

「瀬田川洗堰初代所長、長沢忠志上位碑」



大日山は、滋賀県で一番低い山
標高 127m。

三川合流点近くの八幡市の石清水八幡宮のある男山（鳩ヶ峰）
は標高142.5m。



長沢忠は29歳で病魔に倒れた河川技術者

明治29年（1896）の琵琶湖水害による「瀬田川改良工事の設計、施工」を担当、瀬田川に張り出していた大日山の開削工事にも従事。

明治29年（1896）の集中豪雨は甚大な水害をもたらし9月7日から降り出した雨は12日まで断続的降り続き、鳥居川量水標は観測史上最高の水位に。この大洪水による被害は琵琶湖沿岸に留まらず、下流の京都や大阪にも及び、これを契機に、淀川水系治水工事が実施。

明治33年（2000）から瀬田川の浚渫工事が始まり、翌34年には大日山の切り取り工事が行われ、さらに明治35年には南郷洗堰（旧南郷洗堰）の建設工事が開始。この洗堰にて琵琶湖水位は安定、沿岸部の水害の軽減と用水の確保に大きく貢献。昭和36年（1961）、この洗堰に変わって、現在の洗堰が建設された。



大日山の山頂付近から
河川の中まで、大日山があったとは思えなかった。

瀬田川の歴史発見！

明治時代の
大日山掘削にかかる石碑



大日山のふもとで発見されたそうです

明治29年の琵琶湖の大洪水後、明治38年から始まった瀬田川に関連する工事では、大日山の掘削も行われました。その掘削工事後に建てられた石碑について写真を含めた情報をいただきました。

情報提供

NPO都市災害に備える技術者の会
理事 辻謙一様

情報提供日

2023年11月23日



情報ありがとうございます！

ウォーターステーション琵琶にて、職員様3名と「長沢忠志上位碑」の話で盛り上がり、「瀬田川の歴史発見カード」を新たに作成いただき、ロビーにて掲示いただけることとなった。

「瀬田川洗堰初代所長、長沢忠志上位碑」案内用のオリジナルカード

3-3 昭和28年水害

◆災害の概要

「昭和28年水害」とは、京都府域ではふたつの災害。

- 1つ目 8月14日から16日にかけて寒冷前線の影響で降った大雨による南山城水害。(滋賀県では「多羅尾水害」三重県では「西山水害」とも)
- 2つ目 9月の台風13号による京都府北部から南部に至る大水害。

○1つ目

8月13日、サハリンからオホーツク海に進んだ低気圧から伸びる寒冷前線が、北海道の南東岸から東北地方北部を通して朝鮮半島中部に達して停滞。

14日には南下して近畿北部に停滞。

15日には前線はさらに南下して16日まで停滞。

京都府南部、滋賀県南部、三重県、奈良県では14日夜から15日朝にかけて雷を伴う豪雨となり、特に和束町湯船で400ミリ以上の大雨。

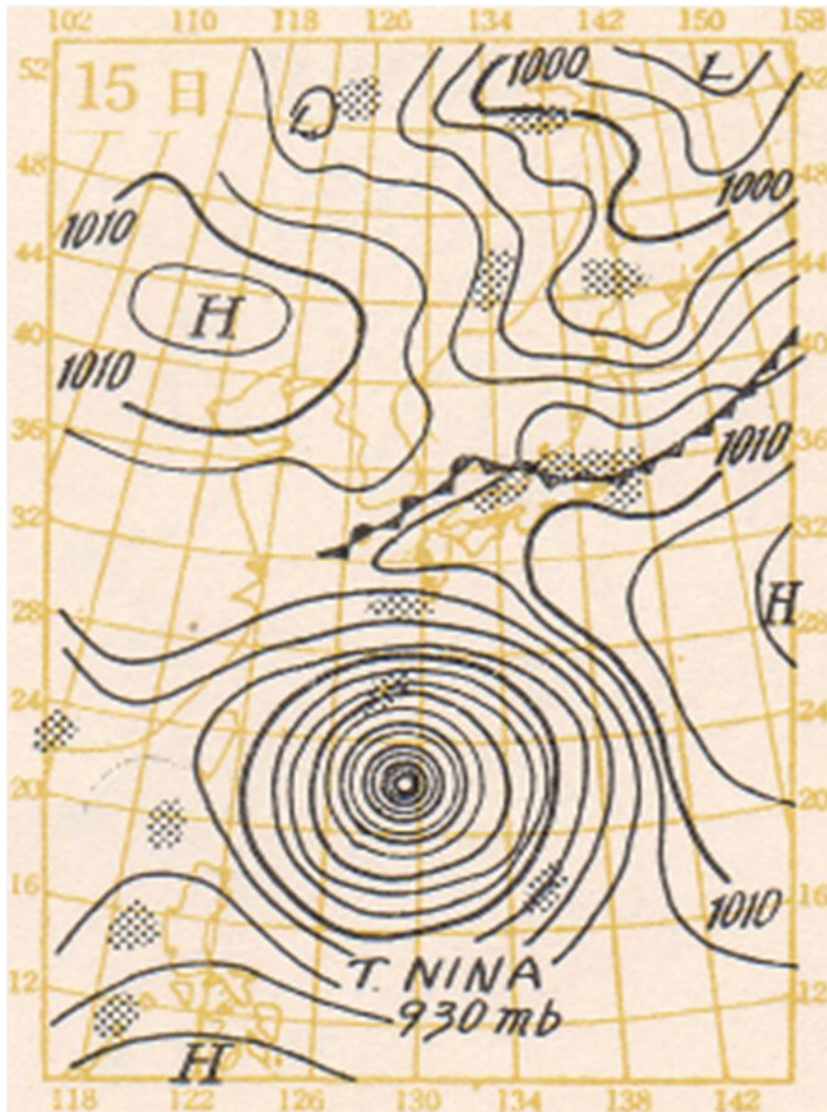
京都府では、木津川上流での土石流や、井手町での大正池の堤防決壊により、300名を超える死者・行方不明者。

滋賀県でも多羅尾村で山崩れにより40名を超える死者。(南山城の大雨 昭和28年(1953年)8月11日～15日 気象庁HP)

滋賀県では、信楽町多羅尾で死者44人、全半壊流出戸数が全村の3割という激甚被害。

全国で死者290名、行方不明者140名、負傷者994名など。

(消防白書から引用加筆)



台湾の東に台風があり南東から湿った空気が寒冷前線に向かって多量に流入。

この豪雨は極めて限られた地域に集中したため、気象台の対応が遅れ、
京都測候所が大雨注意報を発令したのは、災害発生後の15日午前5時。

(京都測候所雨量65mm)

また、奈良、彦根の測候所は、正午過ぎの発令。

◆奈良測候所雨量107mm

◆彦根同52mm

〇2つ目

9月18日にグアム島の南東海上で発生した台風第13号は、22日になって急速に発達し、非常に強い勢力を保ったまま北緯30度まで北上。

その後、25日17時に三重県志摩半島を横断し、伊勢湾を経て18時半頃愛知県知多半島に上陸。さらに長野県諏訪市付近、新潟市の東を通って、三陸沖に進行。

四国から関東地方にかけて20～30m/sの最大風速を観測。
また、期間降水量は舞鶴市で507.0mmに。

台風の進路に当たった地方では暴風雨により被害が続出し、中でも愛知、三重、京都、滋賀、大阪、福井の各府県で甚大な被害が発生。

(台風第13号 昭和28年(1953) 9月22日～26日気象庁HPから引用)

全国で死者393名、行方不明者85名、負傷者2,559名など。
(消防白書から引用加筆)

◆自然災害伝承碑物

昭和28年水害関係 京都府域26箇所 辻現地調査分
(昭和28年水害に特化した由良川水害含む)

◆昭和28年8月の南山城水害(12箇所)

○南山城村 北大河原

○木津川市山城町 南綺田

○木津川市山城町 北平尾

○木津川市山城町 北河原

●井手町 玉水駅構内

●井手町 石垣区公民館

●井手町 玉川 駒岩の左馬

○和束町 和束中学校門前

●井手町 宮本水車舊址

●和束町 大井手用水災害復旧

○宇治田原町 郷之口

●井手町 高神社

◆昭和28年9月の台風13号水害(14箇所)

- 宇治市 西体育館
- 宇治市 南小倉小学校
- 久御山町 大池神社
- 京都市 伏見区 巨椋池排水機場
- 久御山町 久御山排水機場

- 福知山市 大江町 由良川 雨過天晴の碑
- 福知山市 由良川 堤防神社
- 福知山市 由良川 御霊公園
- 福知山市 大江町 由良川 蓼原民家の水位標示
- 福知山市 大江町 由良川 蓼原堤防の水位標示

- 福知山市 大江町 由良川 河西体育館の水位標示
- 福知山市 大江町 由良川 頌徳碑
- 福知山市 由良川左岸堤防
- 綾部市 由良川 水の記憶の碑小公園

○南山城村 北大河原 災害記念碑



(碑文 背景)

昭和28年（1953）8月15日未明に発生した水害。前夜からの豪雨は雷をともない、12時間の推定雨量は570mm。現在の南山城村にあたる2村、大河原村と高山村の全域で山津波が発生し、中小の河川は土石流に見舞われた。

この碑の後ろを流れる山城谷川は、関西本線の土手をくり抜いたトンネルを流れていたが、土石流でトンネルが詰まってダムとなり、夜中の3時頃ごろ音とともに決壊。下流の民家二十数戸がのみこまれ、一瞬にしてここだけで36人、押原区でも14人が亡くなった。

犠牲者総数は両村あわせて54人。負傷者も多数、民家や田畑の流失も甚大。

村では、災害の記念日である昭和31年（1956）8月15日に災禍の惨状を記して後世に残すため、この石碑を建立。

（碑文 原文）

南山城水害記念碑

**昭和二十八年八月十四日日没より降り始めし雨は夜と共に益々勢を増し
雷鳴天地を揺るがし雨量刻々に増大し夜半に至りては稀有の大豪雨とな
り遂に翌十五日未明山津波と激流は家屋を埋没流失せしめ一瞬にして幾
多の尊き人命を奪い而も祖先傳來の田畑は砂礫の河原と化し道路は寸断
され交通通信は全く杜絶し慘状人をして目を蔽はしむ實に本村未曾有の
大災害たり為に村民の生活は根底より覆され永年の平和郷も荒廢その極
に達せり爾來三星霜能くその廢墟より立ち上がり營々苦心の結果復旧の
功漸くその半ばに達せる今日茲に記念の碑を建立し災禍の慘状を記して
後世に遺さんとす**

昭和三十一年八月十五日建之



落款（落成款識印）も添付されている

「智山化主」、「秀峰」
⇒石碑としては珍しい「陽刻」
（←浮かした文字）

真言宗智山派 智積院第57世

埼玉県仏教会長、全日本仏教会
副会長
倉持秀峰（1891～1972年）

※昭和28年（1953）当時、南山城村は大河原村と高山村となっており、災害後の昭和30年（1955）4月1日に合併して南山城村となった。



水害直後の写真 南山城村体験観光推進協議会HPから引用
写真の右上にあるのは、被害を受けた旧大河原小学校校舎と運動場で土石流
の爪痕を見ることができる。
中ほどには関西線の山城谷川の橋も見える。

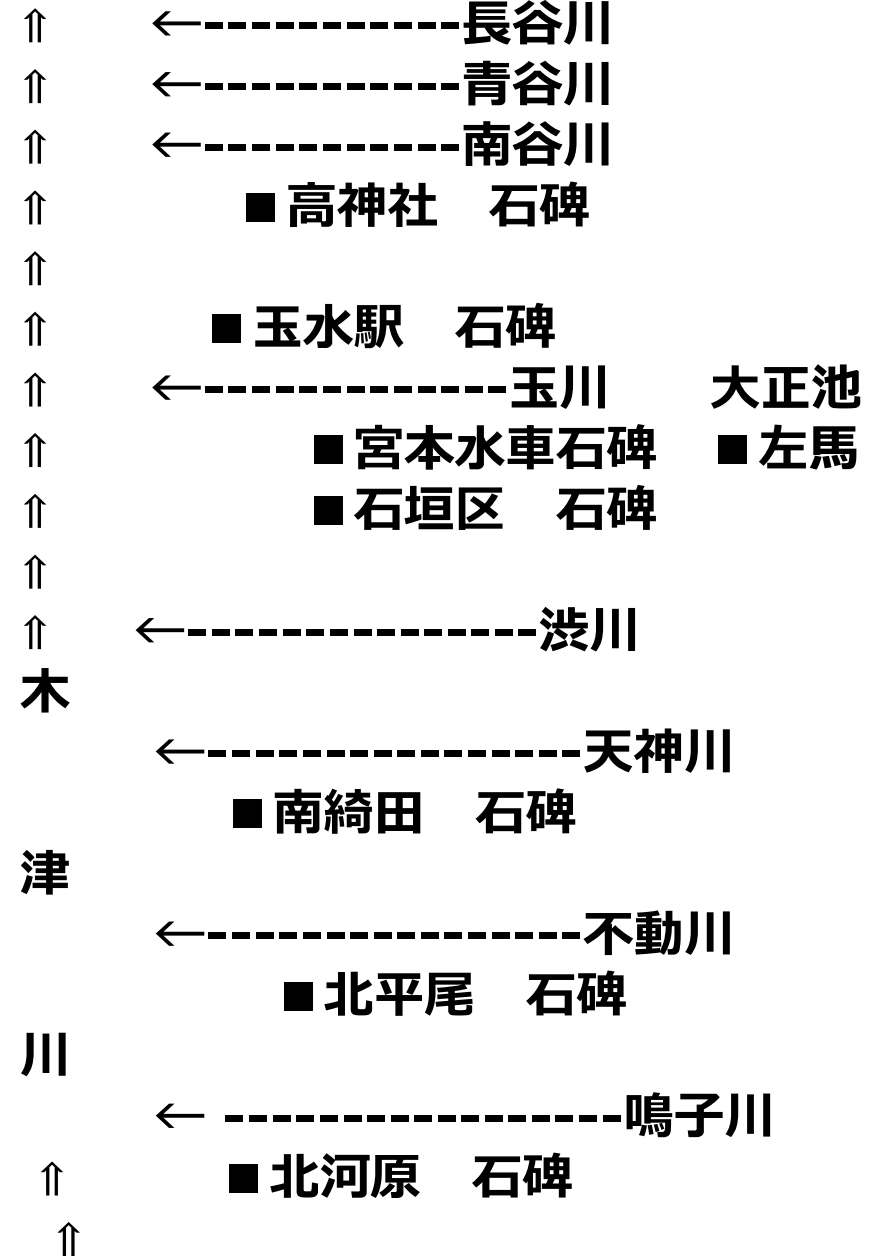


**昭和28年（1953）に土砂ダムができ、ダムが崩壊した
山城谷川の関西線トンネル（当時）付近の現況。
（現在はプレートガーダー式橋梁となっている）**



木津川の山城大橋から東方面の山々 青谷川流域だけ山が低い鞍部

木津川右岸 天井川模式図



○木津川市山城町 南綺田 災害記念塔



(碑文 原文)

ないと思うな不時災難

昭和廿八年八月十五日未明南山城地方を
襲った未曾有の大豪雨による天神川不動
川の堤防は崩壊 田畑は砂礫泥濘の惨た
る荒原に化す同年十月これが復旧に立ち
住民不屈の協力により同廿四年五月工事
全く成る同年八月十五日にこれを立つ

耕地二七八反

水路七〇九五米

道路三二四七米



天神川現況 JR奈良線交差

○木津川市山城町 北平尾 水害記念碑



(碑文 要約)

昭和28年（1953）8月15日未明、南山城地方を襲った前日からの集中豪雨により旧山城町の4つの天井川が決壊し、死者32名、負傷者602名という大災害が起こった。とりわけ、天井川に囲まれた棚倉地域、高麗地域に被害が集中しており、棚倉地域では24名が死亡、家屋流出19戸全壊家屋30戸であつた。

←「上鳴子橋」の親柱

約1キロ離れた鳴子川の橋の親柱が不動川近くに流れ着いた。石碑と同じ敷地にあつた





(碑文 原文)
南山城 水害記念碑

**昭和二十八年八月十五日未明
発生せる南山城水害により死
者二十四名流失家屋十九戸全
かい家屋三十戸耕地四十七丁
歩畑六丁八反歩が埋没或いは
流失す
棚倉村の被害總額十五億余円
也**

昭和三十年八月建立

(深堀 1)

不動川では災害前の河床切り下げ前の堤防が今も一部区間で残されている

今の舗装面が被災当時の川底のレベル

被災時の右岸の堤防は現在の河道内にあった

不動川は右岸3箇所、左岸3箇所と下流側から次々と決壊し奈良線上の川底も抜落
堤高は被災時、田の面から16.5m

平尾村絵図では

「田地より川床まで高さ10間

(約18m)」 と記載



**切り下げられた天井川の堤防
元の堤防の一部が左岸側に残されている**



↑不動川の下の大和街道トンネル
「28災 南山城水害記念誌 企画・
編集／山城町総務課」から引用



現在
元々は左側のような背の高いトンネルであったが、天井川の切り下げにより、断面が小さくなった。

⇒もともとこの不動川の道路トンネルは大正3年（1914）に作られたが、昭和28年水害による災害復旧に併せた改良工事で天井川である不動川の河床が3m以上切り下げられたため、トンネルの高さが、1.6mに減少することとなった。最初にこのトンネルの右岸下流側が決壊した。

(深堀 2)昭和28年水害のさらに前の享和の水害での伝承物

昭和28年水害の151年前の享和2年（1802）6月28日の洪水は、ここ木津川筋を襲った大洪水のひとつに数えられ、新在家から北河原に至る旧狛8村に壊滅的な打撃を与える大災害をもたらした。北河原の西音寺（さいおんじ）の過去帳に当時の住職がその時のありさまを記されていることが調査でわかった。

**「新在家の上手、木津川の片狩堤がおよそ8町切れ」
（8町は、約864m）**

「狛中一面の洪水誠に水満候はば大海の如し」

「実に前代未聞の洪水」

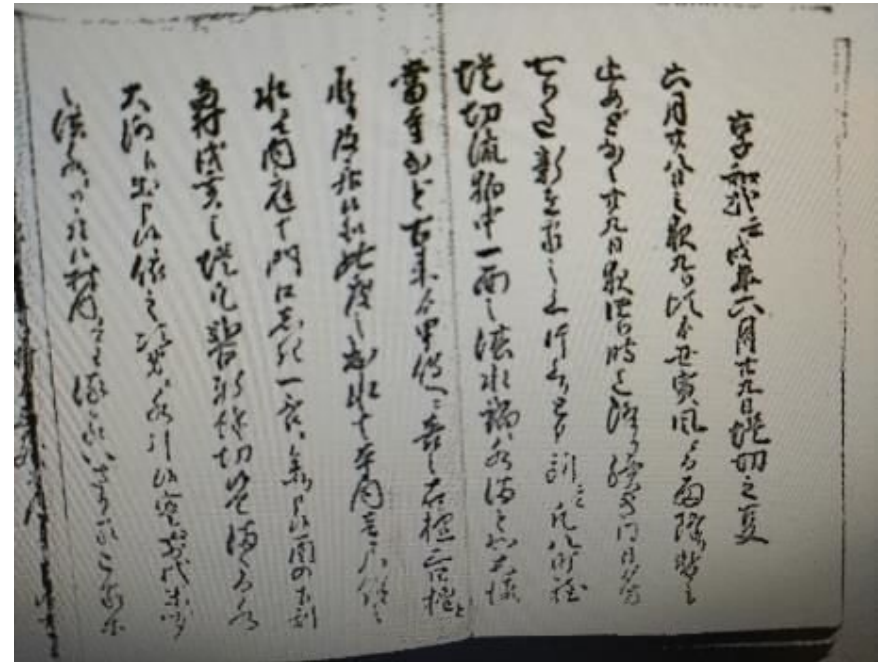
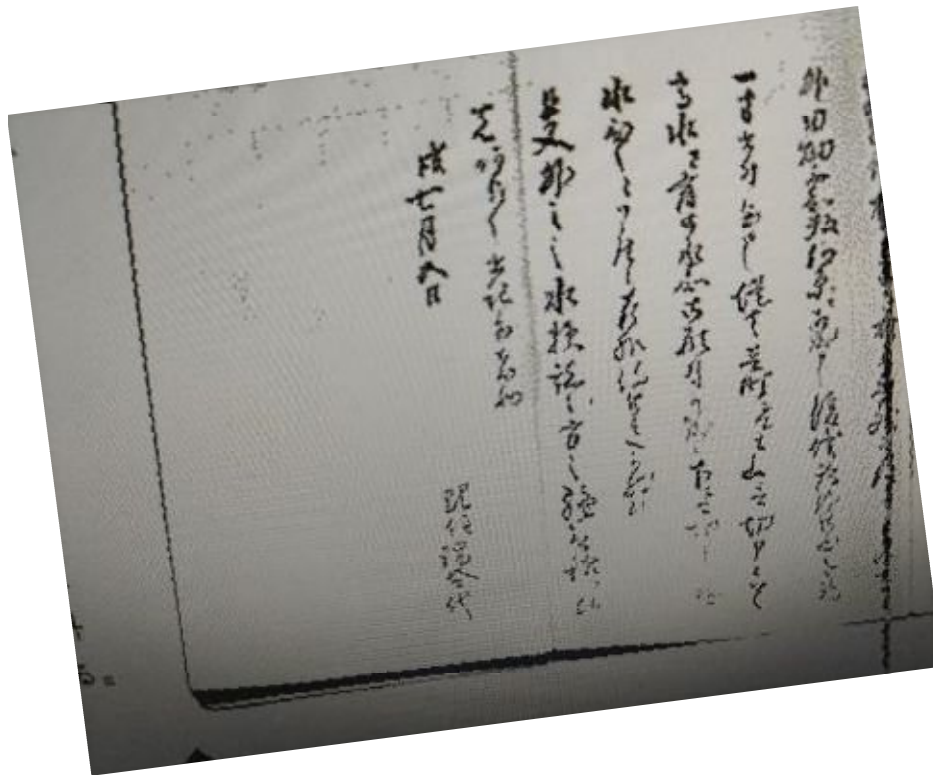
「家は村方残らずそんじ」（村方とは北河原）

「田畑數知れず河原に相成候」

「後代の御心得の為、一寸書付置き申す」

などとある。

西音寺の過去帳



↑ 「28災 南山城水害記念誌 企画・編集／山城町総務課」 から引用

○木津川市山城町 北河原 水害記念碑



（碑文 原文）水害記念碑

昭和二十八年八月十五日夜来の豪雨は閃光と雷鳴の中山を裂き未曾有の大洪水を引起こし狂奔する鳴子川水勢は区民必死の防御も及ばず遂に北河原橋に於いて堤防を決壊させ一瞬津波の様に人家を襲う時に午前四時濁流は多数の人と家を流し村民懸命の救助もはかなく荒れ狂う水魔は七名を不帰の客とし美田を砂浜と泥沼に化す以来区民一致協力苦難を克服して復興を見るに至る

ここに大水害十周年を迎えるに當り犠牲者の霊を捧げると共に有史以来の惨禍を後世に伝える
昭和三十八年八月建 北河原区



鳴子川現況
天井川になっている

●井手町 玉水駅構内 水難記念



↑駅舎改修前

ホームの中からはしか見ることができなかった。



↑駅舎改修後

ホームに入らなくても見ることができる。
⇒**地域からの要望で、駅舎改修後も石碑が存続されることとなった。**

(碑文 原文)

水難記念 昭和二十八年八月十五日南山城水害

それはこの町にとって忘れ難い悲運な記録である。前夜来の雨は時間雨量百五十ミリを超える稀有の集中豪雨となった。そして暗夜の中に猛り狂った水魔は町も人も一瞬のうちに躁躍。一夜明けた町は百七人の犠牲者を含む無惨な受難地獄であった。当駅も駅舎ホームは文字通り河原と化した。この石(6トン)は東南約五百メートル先の玉川から押し流されてきたものである。

昭和五十六年一月十五日建立 玉水駅



玉川の溪谷出口部（標高約90m）から 玉水駅付近（標高約30m）の現況遠望。

溪谷出口部と玉水駅との距離は、1.6kmであるが、60mもの標高差がある。



現況の玉川の溪谷出口部のスリット式砂防ダム。

●井手町 玉川 駒岩の左馬



↑年末・年始（しめ縄飾り）



（背景）

昭和28年水害で、玉川沿いの対岸からこの巨石が転がり落ちてきた。

重さ数百トンの大きな岩で、表面に約1メートル四方の馬が刻まれている。



↑ 夏



玉津岡神社の社記によると、この駒岩はもと玉川左岸の株山にあつて「玉川水源龍王祠側大岩彫刻駒形の絵」と平安末期の年号とともに記されている。

毎年、年末に地域の方々が、しめ縄飾りを付けられ、水害の伝承をされている。

●井手町 石垣区公民館



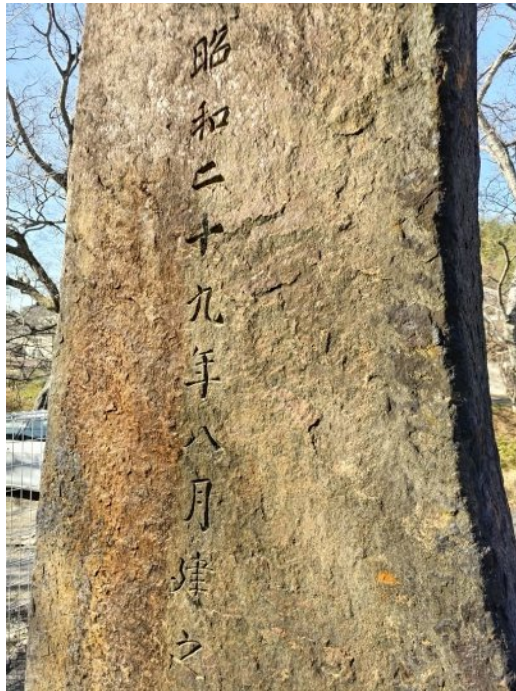
いつの季節もお花が飾られている。上⇒冬、下⇒夏

(背景)

水難者慰霊塔

昭和28年（1953）8月14日、夕刻頃から小雨であったが、22時か23時より強雨となり、8月15日に日付が変わった頃、雷鳴を伴う豪雨となった。午前2時半頃から才田川で最初の決壊、井手町においては低地での浸水が始まった。午前3時頃より玉川下流の右岸で、下流から順に越流・決壊が発生し始めた。そこへ、午前4時頃、上流にある農業用ため池（大正池・二の谷池）がほぼ同時に決壊し、山津波が発生。これにより玉川の上流でさらなる決壊が発生し、井手町は甚大な被害に見舞われることになった。

井手町玉水地区は木津川堤防、玉川堤防、谷川の堤防という3方を堤防で囲まれており、典型的な内水地区となっていた。そのため、ほかの被災地区では早期に排水が進んだのに対し、この地区は災害後数日たっても水位が下がらず、しかも行方不明者の多くがこの地に流れ着くという状況が発生していた。



慰霊塔前の玉川
増水時に訪問。



昭和28年水害後、玉川堤に地域の人々の手により、山吹の花が植えられた。

○和束町 和束中学校門前 水難者慰霊碑



(碑文 背景
京都新聞記事平成25年(2013)
4月22日)

和束川の水位が6メートルも上昇した。町を貫くこの川の氾濫で、死者、行方不明者は112人(京都府調べ。当時の西和束、中和束、東和束村の合計)に上った。

上流の中和束村は死者、行方不明者の大半、101人という大きな被害を出した。橋や道路が寸断され、救援も遅れた。

「今でも慰霊碑に手を合わせるたびに、私が113人目やったかもしれん、と思う。」





**平成25年（2013）に決壊箇所の和束川沿い（左岸）の場所から生徒が毎日、目にされる和束中学校前に移設された。
石碑の記載内容の説明文も付けられた。**



元の石碑の設置場所は、地元の方にお聞きしたら、和束川沿いにあったとのこと。

水難者慰靈碑

昭和二十八年八月十四日の日没より驟雨来たり深更に及ぶにつれて雷鳴地軸をゆるがす大豪雨となり遂に未曾有の降雨に達し翌十五日未明には各所に山津浪起こり河川は急激に増水し濁流は奔馬の如く瞬時にして多数の家屋は流失或いは全壊し尊き人命は数多殉難し祖先傳來の耕地は砂礫の荒野となり道路は寸断され交通は全く杜絶し住民の生活は根底より覆され為めに天日暗く山紫水明の和東郷一帯は一夜にして荒廃し住民の失意絶望は言語に絶す 世に之を南山城水害と称す其の被害は二十数億圓に及び殉難者一一一柱重症者一九名家屋の流失全壊一九六戸半壊六八戸床上浸水二〇七戸田地の流失埋没二一一八反道路の決壊三六八ヶ所橋梁の流失一一三ヶ所堤防の決壊六〇ヶ所にして誠に甚大なり

一時呆然自失せる住民も相寄り相扶け互に平静をとりもどして奮起し協力一致復興に努力し加ふるに關係官庁の激励と指導を得て今や大半の復旧を見るに至る今日をみし茲に碑を建立して殉難の諸霊を弔い災禍の記録と後の世に遺す

昭和三十三年三月 吉日

和東町

(深堀1)和東郷4ヶ村の合併による和東町の発足は南山城水害がきっかけ

第2次世界大戦後、地方自治体の役割が増大したため、財政的な問題などから市町村合併の必要性が日本各地で議論されるようになった。

和東郷4ヶ村においても昭和26年（1951）の段階で合併の話があったが、実現はしなかった。

南山城水害にる和東川の氾濫により和東郷4ヶ村（西和東村・中和東村・東和東村・湯船村）は大きな被害を受け、死亡者は58人、行方不明者は53人にのぼり、そのほとんどは中和東村の方たちであった。

昭和28年（1953）9月1日、町村合併促進法が公布、10月1日から施行。
各村単独での水害からの復興が難しいことから和東郷4ヶ村は、この法律に基づいて合併協議を進めていくこととなった。

湯船村の広大な村有林を合併後にどう扱うかの話し合いがまとまらず、昭和29年（1954）12月15日西和東村・中和東村・東和東村の3ヶ村が合併して和東町が誕生した。

その後、湯船村有林は合併後も湯船財産区有林とすることで話しがまとまり、昭和31年（1956）9月30日湯船村も合併して、現在の和東町が誕生。

現在の和東町は、昭和28年水害の伝承自治体そのもの。

(深堀2)昭和28年水害と仁丹第二工場(現木津川市加茂町)



昭和28年水害で被災した仁丹第二工場。
引用元 京都府山城郷土資料館資料



昭和28年水害での流出後に付け替えられた二代目「仁丹橋」と工場跡地。

製粉を人力から、動力粉碎に切り替えるための第二工場の主目的が「粉ひき」ということもあり、水力による低コストの動力源を大阪府内外に求めており、渓谷地形の和束川に白羽の矢が立ち、第二工場が和束川の左岸に建設され大正6年(1917)2月に操業開始。

橋から少し上流には、第二工場の取水用に作ったと思われる高さ5m程度の堰が建設され今も遺構が残存。

工場は、昭和50年(1975)まで使われており、跡地は、ゲートボール場としても使用。



第二工場の取水用に作られた和束川の堰。



**昭和28年（1953）の水害で流出した後
に付け替えられた二代目「仁丹橋」。**





大阪道修町の少彦名（すくなひこ）
神社での「仁丹」の祈願板。

橋名板の字体も「仁丹」のものと同じ。

「仁丹」というネーミングの経緯
中国大陸への輸出を念頭に、東洋道徳の根本であり、「仁儀礼智信」の五常首字であり、儒教の中心で、最高の徳で、中国では文字の王とされる「仁」に、台湾でヒントを得た丸薬に使われていた「丹」の文字を組み合わせたもの。

●久御山町 大池神社



(碑文 原文)

万葉の昔より詩歌、文芸にあらわれた巨椋池は、古くから洛南の名勝地として知られ、古代よりわが国の歴史とともに歩んできた池沼であった。

淀・木津・桂の三川が合流して一大遊水地帯をなし、舟運の要衝であったが、沿岸住民は度重なる水害に悩まされていた。近時沿岸町村間に開墾干拓の要望が勃興し昭和十六年干拓工事の完成を見、現在の美田約七百ヘクタールが出現し米三万石が産出されるようになった。

昭和二十八年九月二十五日、十三号台風により淀川堤防が決壊、濁水が干拓田に流入、接続地とともに水没し昔時の巨椋池の再現を思わせた。その時の水位がこの碑の頂点である。

巨椋池土地改良区理事長 池本樽三郎



巨椋と言う名称については諸説あるが、元々「椋」という文字には凹んだ所という意味があり、大きく凹んだ池ということで、巨椋池となったという説が有力。

農業土木御専門の巨椋池開墾工事事務所初代所長の可知貫一氏の指導により巨椋池が干拓された。

大池神社は、池に生息していた魚類などが干拓で絶滅したことから、この生物が供養されている。

可知貫一氏は、大池神社に魚類を弔う石碑「大池漁業記念碑」を謹書された。



可知貫一氏の謹書による大池神社内の干拓による魚類などの命を弔う「大池漁業記念碑」



久御山排水機場と「治水隆盛」の石碑





**可知貫一氏は、用水を地域毎に公平に配分する「円筒分水」の発明者
（大正3年（1914）に発明、岐阜に第一号）**

画像は京都市の洛西用水の「円形分水」

●宇治市 南小倉小学校（碑文 要約）



ここはむかし巨椋池のなかでした。巨椋池では昭和8年（1933）から干拓工事がおこなわれ昭和16年（1941）に完成しました。蒼々とした田んぼに生まれ変わりましたが、昭和28年（1953）9月25日に大きな水害にみまわれました。台風による大雨で宇治川や木津川の水かさが増し、向島では堤防がくずれてしまいました。

巨椋池はもちろんまわりに住んでいる人たちの家にまでどんどん水が押し寄せ、ついにはこの上に表示している赤い線のところまで水の高さが及ぶ大洪水になったのです。ここに大きな被害を語り伝えるとともに「水」のおそろしさを記録するものです。

「水」は命を育むものですが、時には恐ろしい災害をもたらします。災害はいつ起こるかわかりません。

※教頭先生からご案内いただき、
「なぜ、大阪の人が、この表示が学校に置かれているのを知っているのですか」と言われた。



●福知山市 大江町 由良川 雨過天晴の碑



大江駅から東南東側の由良川のS字カーブ箇所。

（碑文 原文）

昭和28年（1953年）は各地で洪水が多く発生しました。由良川流域では、6月、7月につづき9月25日、台風13号によるこの時3度目となる洪水に見舞われました。台風13号が紀伊半島から東海地方に抜けるこの正午から夕刻にかけて由良川上流では時間雨量30mm～60mm、総雨量は三日間で、年間降水量の概ね三割の約500mmに達する降雨となりました。その雨は濁流となって一気に中流部・下流部を襲い、大江町では河守地区で最高水位が14.5mに達し、死者8名、負傷者33名、家屋流失などの住宅被害約1300戸を数えるなど明治40年の洪水を上回る未曾有の水害となりました。

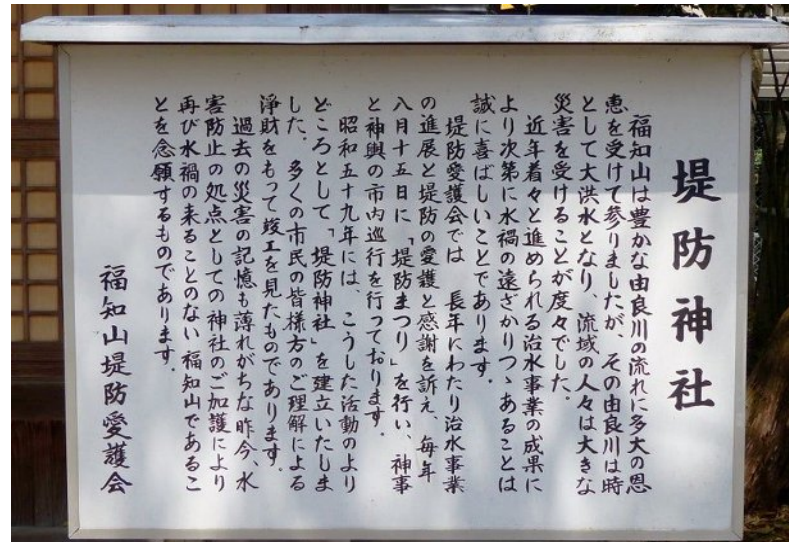
また、上流の福知山市では、死者4名、家屋流失・浸水家屋約5500戸、綾部市では、死者・行方不明者25名、家屋流失121戸を数えました。

由良川に大きな被害をもたらしたこの昭和28年9月の大水害から半世紀の節目にあたり、当時の悲惨な状況から得た貴重な記憶を風化させることなく、後世に引き継ぐことを目的にこの碑を建立します。

平成15年9月25日

国土交通省福知山河川国道事務所
大江町

●福知山市 由良川 堤防神社



洪水による災難から市民を守る堤防に感謝する「福知山堤防愛護会」が組織され、福知山市内で8月15日に毎年堤防まつりを開催。

祭典、神輿巡行、堤防神社での神事、音無瀬橋上などで川清めを行わている。

昭和59年（1984）に、堤防をご神体とする堤防神社を建立。

日本で唯一の堤防神社で過去の水害を忘れないための拠り所。

宮司さんは昔からの知人。



堤防神社



●福知山市 由良川 御霊公園の水位標示



昭和28年浸水位
標高20m69cm
昭和28年9月25日 台風13号

●福知山市 大江町 由良川 蓼原民家の壁の水位標示



1953.9.25 台風13号 福知山水位7.80 大雲橋水位14.50
2013.9.16 台風18号 福知山水位8.28 大雲橋水位10.85
2004.10.20 台風23号 福知山水位7.53 大雲橋水位10.96
2018.7.7 7月豪雨 福知山水位6.52 大雲橋水位9.85 樋
門水位外水 内水

●福知山市 大江町 由良川 蓼原堤防の水位標示



S28.9.26 台風13号 TP15.90m

**平成25年9月台風18号浸水位
水がここまできました。
TP14.83m**

**平成16年9月台風23号浸水位
TP14.83m**

**昭和34年伊勢湾台風浸水位
TP+14.60m**

**平成30年7月浸水位（内水）
水がここまできました。TP13.62m**

S47.9.17 台風20号 TP13.30m

福知山市大江町蓼原

自治会が自ら高台に造成された災害避難時駐車場



令和元年（2019）年、蓼原自治会による水害時に住民たちの自家用車を水没から防ぐため、地区内の高台に建設された車両専用の避難駐車場。

洪水時に住民たちは、水がつかない山間部へ向かう市道沿いなどに車を駐車するしか無かったため、安全にとめておくことができる専用の駐車場を造る計画を立て、自分たちで整備。

場所は、浸水しにくい集落山側の空き地で、住民から提供を受け、広さは約300平方メートルで、車約50台が駐車可能。まず避難希望者を区外の避難所へ送ることを優先し、その後車を安全な地元の専用避難所に移すことで、区民の生命と財産を守っていかれる。



災害避難時駐車場入り口の手書きの看板

●福知山市 由良川 大江町(河西体育館南)



昭和28年9月 台風13号想定水位 TP+15.77m

平成16年台風23号 浸水位 TP+15.04m

もしもの洪水に備えて

平成16年台風23号での浸水区域図表示（福知山河川国道事務所）

由良川地域水防災対策計画水位 TP+13.27m

○福知山市 由良川左岸堤防



(碑文 要約)

二十八災 堤防決潰之地

昭和28年(1953)9月25日、台風13号により正午から夕刻にかけて由良川上流では時間雨量30mm～60mmの降雨があり、総雨量は3日間で約500mmに達した。同日午後9時頃には和久市の堤防が決壊し、福知山市では死者4名、家屋流失・浸水家屋約5千5百戸を数えた。流域の綾部市、大江町（現 福知山市大江町）でも被害があった。

福知山市市民体育館近くの左岸堤防上。





○番外1 滋賀県甲賀市信楽町牧 鹿島神社境内

昭和28年水害 滋賀県にも訪問した。

ここは、8月15日と9月25日双方の被災が一つの石碑に刻まれていた。

昭和 water 之碑

昭和28年8月15日全年9月25日再度之豪雨は有史以来之大水害にて、井堰5所溜池■所決潰水路千五百米橋梁四流失農地埋没流失約30町歩冠水浸水50町歩是復旧要工事費五千餘萬圓其他損害甚大 是以復旧に区民総決起翌年8月工事完成■理決済

昭和33年10月吉日建立

牧区

■は解読困難





大戸川沿いの鹿島神社

○番外2 滋賀県 甲賀市信楽町里宮神社



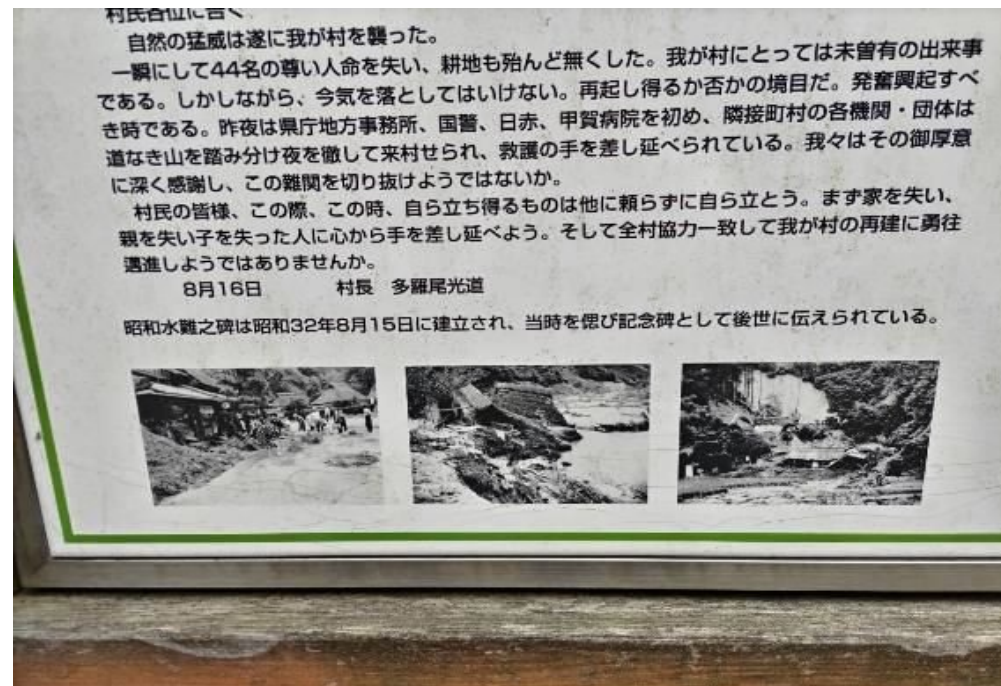
昭和水難之碑

昭和二十八年八月十五日払暁多羅尾地区を襲った豪雨は激烈な雷鳴を伴い数時に
して四百耗を超す雨量をもたらし加うるに山地は崩壊して山津波は各所に起り終
に死者四十四名重軽傷者百三十名家屋の全倒壊四十戸半壊損傷無数田畑道路殆ど
壊滅其の惨状筆舌に尽くし難し

今や復古成るに際し當時を偲び記念の碑を建て後塵に伝える

題字 碑文 佐野長一郎

昭和三十二年八月十五日 建之 多羅尾 自治会



多羅尾公民館横の伝承掲示板。

○番外3 三重県 伊賀市 果号寺

三重県にも訪問した。



阿弥陀

昭和廿八年八月十五日

山津浪水害遭難死者之供養塔

昭和28年(1953)8月14日夕方からの雨は夜半に大豪雨となり、15日未明に高旗山系で土石流が起こった。

西山地区住民の死者は13名。供養塔には帰省中に被害に遭った1名を含む、14名の氏名と年齢が刻まれている。

○番外4 三重県 伊賀市 西山公民館



山津浪記念碑

昭和28年(1953)8月14日夕方からの雨は夜半に大豪雨となり、15日未明に高旗山系で土石流が起こった。

この地区を襲った土石流により死者13名。家屋流失倒壊30棟。耕地埋没流失30ヘクタール、道路は全線欠壊し、橋も全て崩壊した。山林崩壊して岩床を現わし、流木は散乱し下流に堆積して山となった。

○番外5 三重県 伊賀市 正月堂



山津波災害記念碑

昭和28年(1953)8月14日夕方からの雨は夜半に大豪雨となり、15日未明に北部山溪一帯で土石流が発生した。旧島ヶ原村の死者行方不明者は15名、流失家屋22戸等の被害が発生した。

**(深堀)「石碑ではない伝承文化」事例
を探した。**

**舞鶴市彌加宜（みかげ）神社の
大名行列**

**昭和28年（1953）9月25日、舞鶴地
方を襲った台風13号は、死者53名、負
傷者131名という未曾有の被害をもた
らした。**

**こうした悲劇と困難から立ち上がろう
と、森・行永両地区の氏子、宮衆に南
商工会が呼びかけ、翌昭和29年の例祭
から、大名行列が挙行された。**

**それ以降毎年盛大に挙行され、昭和45
年（1970）に氏子有志が中心となり、
「大森神社奉賛会」が結成され、現在
に至っている。7月14日・15日が例大
祭日で、神社創建の14日の午後に総勢
70名の「大名行列」などの行事が催さ
れる。**

舞鶴市資料から引用



3-4 堤防決壊の地の自然災害伝承物

京都府域では、3-3の福知山の昭和28年（1953）水害の由良川の1箇所しか発見できず。大阪府域では、淀川唐崎、淀川伊加賀、淀川大塚、淀川赤井と大和川(堤防安泰祈願の碑)などがある。福井県の足羽川も調査に出向いた。

○高槻市 淀川 唐崎
(築堤碑・修堤碑)



（碑文 要約 高槻市現地看板から引用）

築堤碑「左側、明治23年（1890年）建立」

慶応4年（1868年9月に改元、明治元年）5月12日、折からの長雨で、唐崎弥右工門屋敷堤防が延長309メートルにわたって決壊。このほか前島や大塚などでも堤防が切れ、被害は流域の165か村、浸水面積は5400ヘクタールにのぼった。築堤工事は7月から行われ、10月に完了。これを顕彰するため、島上郡（現在の高槻市・島本町）のほか流域3郡の住民が協力して、この記念碑を建立した。

修堤碑「右側、明治19年（1886年）建立」

明治18年（1885）6月中旬から7月上旬までの大雨で、淀川左岸（枚方側）を中心に各所で堤防が決壊し、現在の大阪市内まで多くの町村が水に浸かり大きな被害をもたらした。これを契機に右岸でも同年10月29日から修堤工事に着手。山崎から一津屋までの約24kmにわたって工事を行い、翌19年3月に完了。同時にこの記念碑が建てられた。

高槻市教育委員会 更新 2010年3月 設置 1987年6月

「修堤碑」には土屋鳳洲による次のような碑文が刻まれている。

「治水にもと奇策なし。地勢を相（み）、堤防を謹しみ、水勢の趨（おもむ）く所を順にするのみ」

○枚方市 淀川 伊加賀



(碑文 要約)

明治18年(1885) 6月18日・7月2日の豪雨により、現在の枚方市伊加賀付近の淀川堤防が約180mにわたって決壊した。

通称伊加賀切れと呼ばれるこの水害は、茨田郡(現守口市・門真市、枚方市・寝屋川市・大東市等の一部)一円を水没させ、濁流は大阪市中にも及んだ。この水害では、2万6千戸以上が流失、約290人が亡くなった。

(正面)

明治十八季淀川洪水碑

(側面)

碑面擘窠八大字係于議定官陸軍少将二品

勳一等能久親王盛翰

大阪府知事従二位建野郷三謹書

（裏面）澱 河 洪 水 碑 銘

維歲明治乙酉夏六月霖雨彌月澱河暴漲堤防大崩漂沒攝河諸郡三百三十七村下民昏墊人畜死亡流失廬舍者二千九十餘戶府知事建野氏聞事急先遣大書記官遠藤氏率其僚屬拮据經營疏鑿水道尋躬親臨之計畫工事時土木局長三島通庸與四等技師田邊義三郎亦臨之協議戮力修理堤防粗就條緒會車駕巡幸山口縣乃詔親王北白川宮代巡撫民隱於是官吏與役徒踴躍奮勵手額相慶曰是官家之恩也諸負之力也安可不記其所自傳之不朽乎哉乃條記其實一曰潰決河內國茨田郡三矢村沿河堤防係于京攝官道者潰決凡二次前者則七十餘間後者則六十間強合前後百三十間餘二曰水量六月十七日水量加一丈四尺八寸其七月一日則一丈三尺八寸三日修築起工于七月十二日其八月三十日竣工中間僅四十餘日耳其成功俊速如此者巡視之備至與役徒黽勉之所致也而其係于新築者二百十九間餘而用土豚木石者都十餘萬四曰工徒用人者十五萬二千六百三十人五曰工費費金者四萬九千三百十二圓四十三泉嗚呼其竭人力之巨費工費之大皆河水暴漲所根据繇是觀之其傷害人民流亡家屋水反有甚於火者也故鄭子產有言曰火烈而水弱烈者民望而畏之故鮮死焉弱者狎而翫之則多死焉其有以也吾知稱此舉曰古之遺愛亦無愧因爲之銘曰火之性可畏可畏者幸身水之性可狎可狎者害人克覺斯理者可治水治民不朽銘偉績遺愛傳千春

明治十九年丙戌九月

平安菊池純 撰文

丹波小畠正 心書

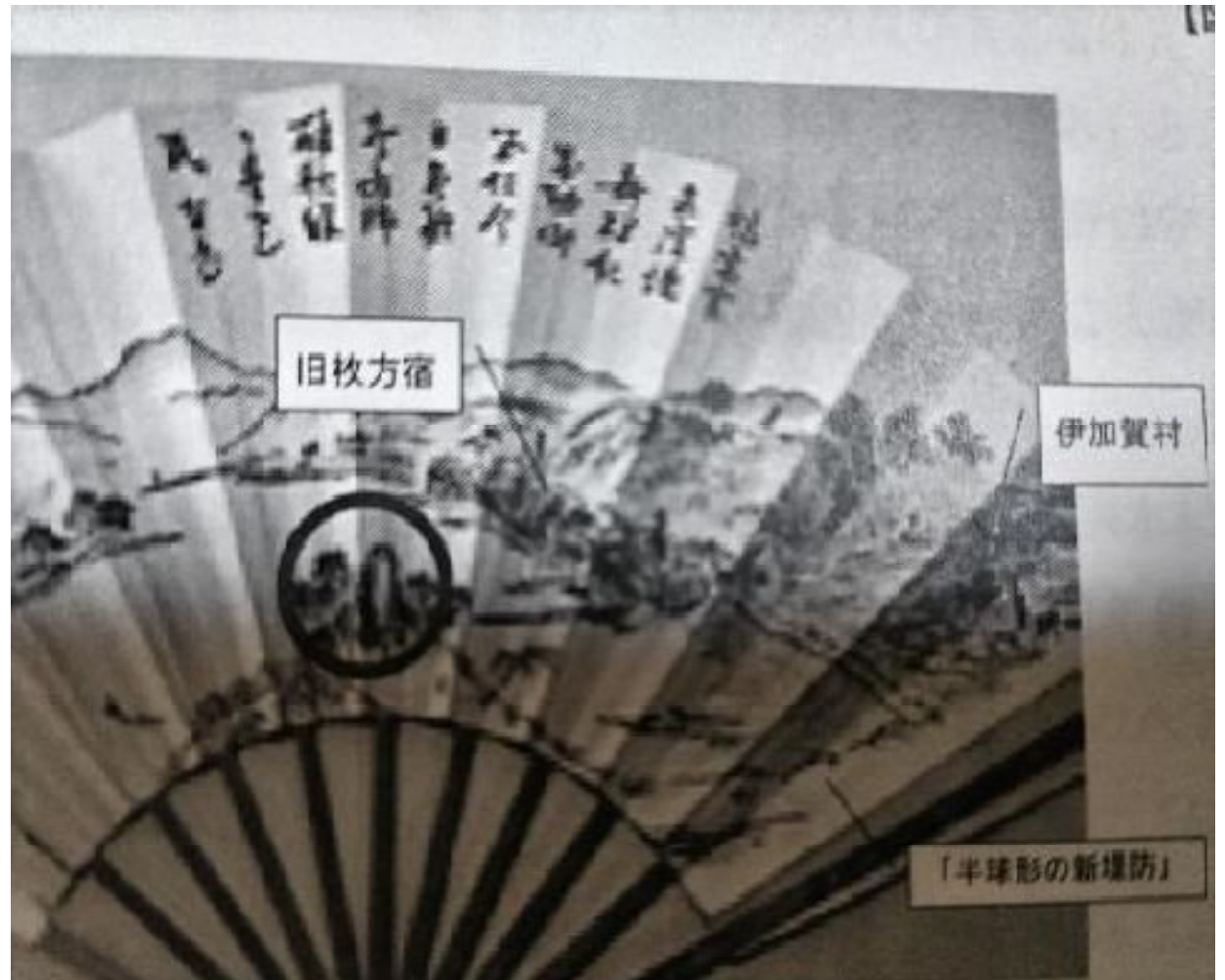
(深堀)

○本石碑が建立されること
となった経緯

明治18年（1885）の洪水の翌年の明治19年

（1886）9月に建立され、11月に盛大に建碑式が行われた。これは、洪水被災地域の住民が、府知事の建野郷三に現地に来てもらい、一旦復旧された半月状の新堤防に損傷（その後、漏水）が発生しており、これの危険性の認知を知事にしてもらい、危険性の除去をしてもらう働きかけを意図した、という説がある。

建碑式では、半球形の新堤防が記載された扇も作成された。



半球形の新堤防が記載された扇

○高槻市 淀川 大塚

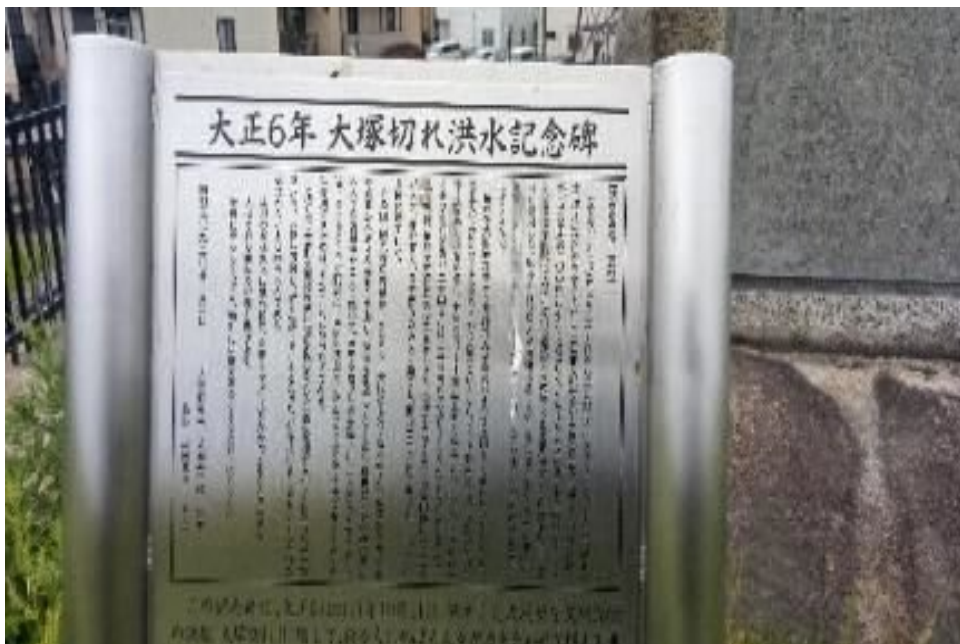


(碑文 要約)

大正6年（1917）10月1日、台風による大雨で淀川の水位が上昇し、高槻市大塚町の堤防が200mにわたって決壊した。家屋は流され、倒壊し、死傷者は数十人にのぼった。

後世への戒め

「居安必勿忘危（安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない）」



伝承式

高槻市は、毎年、この「大塚切れ」の被災を教訓とし、後世に伝承するため、現地で、伝承式を行われている。

○寝屋川市 淀川 赤井堤



(碑文 背景 寝屋川市HPから引用加筆)
赤井堤記念碑は、枚方市との境の淀川堤防に
立っている。背の高い碑で、明治18年
(1885) 6月の大洪水の翌年に大阪府知事の
名で建てられた。
淀川百年史などによると、淀川堤防が決壊して
起きた大洪水では、左岸一帯の997町村で7万
249戸が浸水し、27万6049人が被災した。





このとき、木屋村の北にあった赤井堤も約360メートルにわたって決壊した。高さ約3.6メートルの碑には「家屋三十五を消失し、良田は土砂流入により壊滅した」と記されている。

当時の新聞では、茨田・讃良郡の死者・不明者は51人に上った。記念碑は堤防が決壊した場所に建てられ、水害の怖さを今に伝えている。

●大阪市 住吉区 大和川 堤防安泰祈願の碑



(碑文 要約)

明治の初めの堤防決壊の補修に、やむなく寺院の墓石などを用いたことがあり、その後放置の状態が続いたが、戦後の河川改修の際に、川底から地蔵尊像が現れた。

墓石に混じって、地蔵尊の石像も、堤防補強に使われた。

その際、発掘された地蔵尊像を遷座し、白龍神像を合わせて祀ることで、今なお埋没する幾多の無縁仏を弔い、冥福を祈るようになった。

堤防決壊の跡に、この石碑を建て、堤防の安泰を祈るものである。



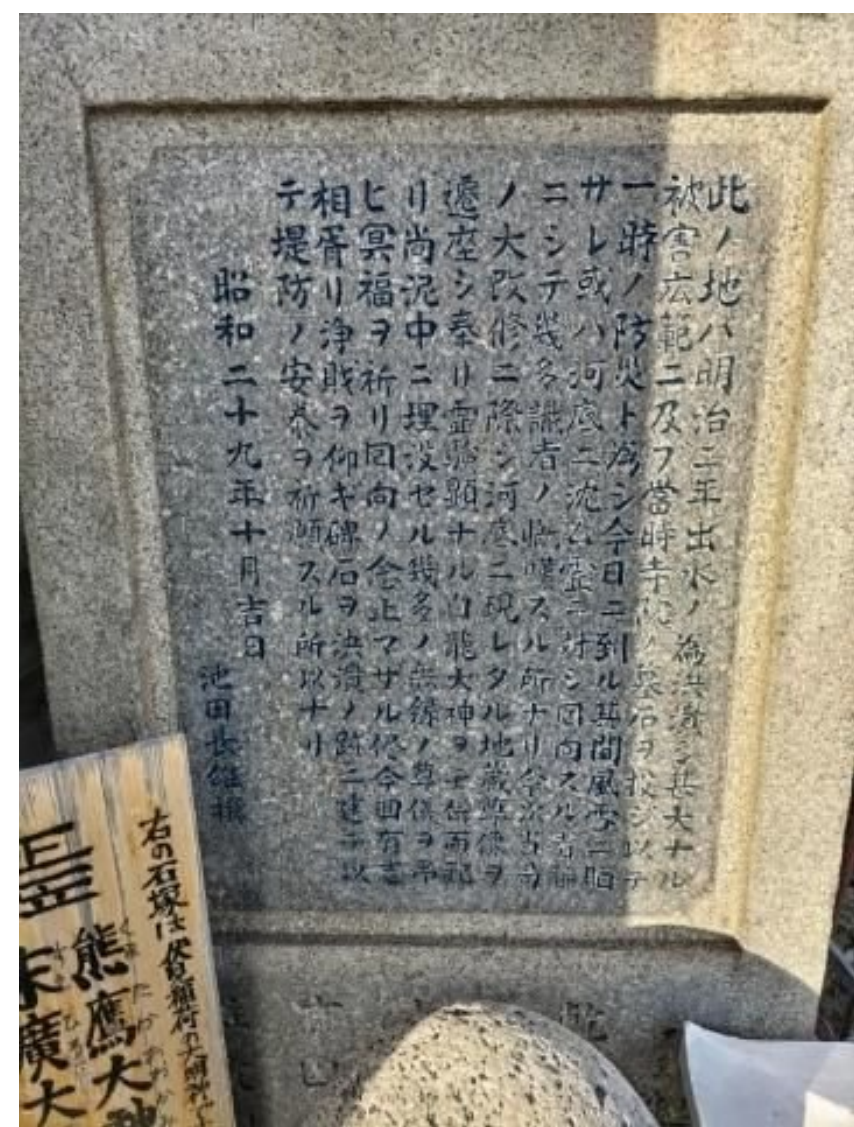
田長雄様

右の石塚は伏見船荷五合神

正座 熊鷹大神
末廣大神

と刻してある

鉄山



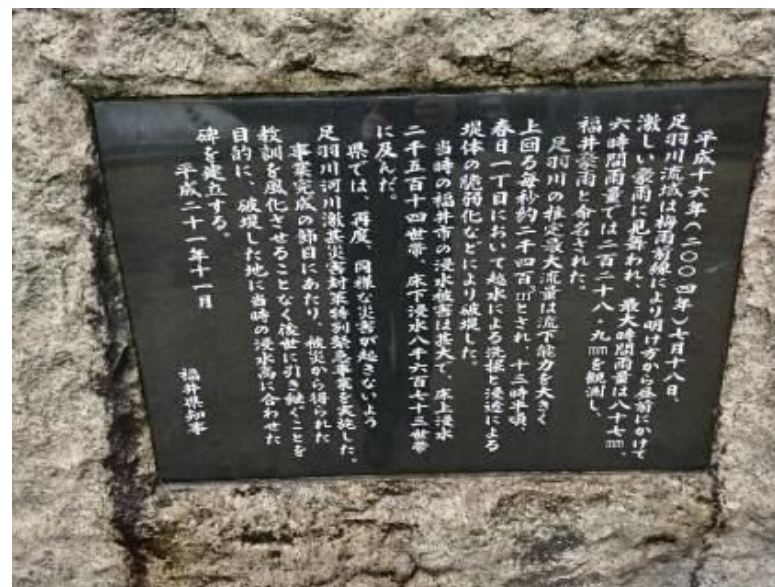
此ノ地ハ明治三年出水ノ為洪水ニ甚大ナル
被害宏範ニ及フ當時寺に奉安石ヲ投シ以テ
一時ノ防災ト爲シ今日ニ到ル其間風雪ニ晒
サレ或ハ河底ニ沈ム蓋ニ付シ同向スル者
ニシテ幾多識者ノ瞻嘆スル所ナリ今茲
ノ大改修ニ際シ河底ニ現レタル地藏尊像ヲ
遷座シ奉リ靈驗顯ナル由龍大神ヲ奉祀
リ尚泥中ニ埋没セル錢多ノ無縁ノ尊像ヲ
ヒ冥福ヲ祈リ同向ノ念止マサル終今由
相胥リ浄財ヲ仰ギ碑石ヲ決潰ノ跡ニ建
テ堤防ノ安泰ヲ祈願スル所以ナリ

昭和二十九年十月吉日

池田長雄様

右の石塚は伏見船荷五合神
正座 熊鷹大神
末廣大神

○福井県 福井市 足羽川



(碑文 要約) 破堤復旧の碑

平成16年(2004) 7月18日、梅雨前線により明け方から猛烈な雨が降り、春日1丁目付近で足羽川堤防が破堤した。

浸水深は石碑の高さまで達し、被害は床上浸さまで達し、被害は床上浸水2514世帯、床下浸水8673世帯に及んだ。



3- 5 大阪市の水防碑 災害は忘れたところにやってくる

大阪市では昭和50年ごろから、概ね、各区に水防碑が設置された。14箇所確認。
昭和51年9月に発生した台風17号による全国各地の被害等がきっかけとなり設置。
石碑の記載文の様式はほぼ同じ。ただ、災害の種類は異なる。

「石の形」、「基礎」、「材質」、「字体」がそれぞれ異なっており興味深い。

- 都島区 「明治18年1885年の大洪水-----網島町の堤防を切り崩し」
- 浪速区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風、同36年第2室戸台風」
- 北区（現在） 「昭和9年室戸、同36年第2室戸台風」
- 西区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風、同36年第2室戸台風」
- 大正区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風」
- 港区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風、同36年第2室戸台風」
- 住之江区 「昭和9年室戸台風、昭和25年ジェーン台風」
- 住吉区 「明治元年大水害で当時の住吉郡遠里小野村の大和川堤防決壊」
- 此花区 「昭和25年ジェーン台風、同36年第二室戸台風」
- 福島区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風、同36年第2室戸台風」
- 西淀川区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風」
- 北区 「昭和9年室戸台風、同25年ジェーン台風、同36年第2室戸台風」
- 淀川区 「明治29年油津村大字新在家の神崎川堤防決壊、当地（旧称堀）
の旧家に救助所が設置」
- 東淀川区 「大正6年神崎川下新庄樋(ここより北200m)の決壊」



(都島区)

都島区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治18年（1885）の大洪水による被害は大きく、東成郡27ヶ村が水中に没した。そこで濁水を淀川に戻すため、野田村の現在の網島町の堤防を切り崩し、徐々に放流した。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時において、なお、一層人々が水防意識を高め、不断の努力で、災害を防除することを祈願して、この碑を建立する。

昭和55年秋 大阪市

(深堀)櫻宮神社の澱河洪水記念碑銘



わざと切りの場所を探索した。
櫻宮神社南側の網島方面は築堤形式となっていた。

澱河洪水紀念碑銘

堯水湯旱天之降災國家代有故雖以虞代垂拱之治不能俾之絕無乃為之人牧者安得不竭盡心力拯其昏墊乎哉明治十八年乙酉夏六月大雨霖澱河暴漲潰決茨田郡伊加賀邨堤防漂沒攝河諸郡百四十五邨水勢浩々極目無際盡成巨浸士民奔竄老弱號呼有乘屋避水者有緣木求救者走者泣者顛者蹶者悲慘滿狀不可名狀災地多屬大坂府下知府事建野君聞警蹶起曰民命至重是不可須臾舍也即會櫻井郡長與土木課員議決堤防實六月十八日也翌日午牌知府事率其僚屬數人馳赴網島權設支局便宜行事乃興鎮臺將校戮力發役夫千餘人決野田邨堤防以殺水勢其攝河諸郡人民蘇息得免魚腹之葬者未嘗不由此偉舉也然而前害已除後患繼起其二十九日暴風甚雨水量益加如驅萬馬而鬪百雷徑潰決櫻宮堤防餘勢汜濫至入市街市街沈沒槁梁悉斷其慘有轉甚前日者也知府事豫慮小民罹水災者衣食或不給為予糧食賑救之於是市井人民海外紳商亦爭給衣糧頒財物靡然從之後又大起工役修理堤防以救助貧民始于七月竣于九月災後窮民得免飢餓者亦未嘗不由其力也抑茨田東成二郡決野田邨堤防免水害者上下百餘年間前後三次一為享和二年距今八十五年矣一為文化四年距今八十年矣獨享和文化之水災水沒德菴堤然後決矣今者則先其未沒而決矣是以保其民命免水害其功效歷々有倍於前日者也若夫曰循不決不獨攝河諸郡被水害其所波及有不可測者也後之值澱河水災者豈可不鑑而誠乎哉今歲闔邨人民罹水災者感其保護之功德尤鉅為建紀念碑垂炯戒乎無疆云銘曰

大水来囊邱陵　微伯禹人咸魚　漂廬舍竈産龜　水上床十尺餘
乗屋者縁木者　全家人悉樓居　明府曰人命重　決堤防注尾閭
水土平服耒耜　山可樵水可漁　建豐碑勒功績　仁斯民者誰歟
明治十九年丙戌春三月　建野府知事篆額　菊池純撰文　邨田浩蔵書丹

(碑文　要約)

堯の時代の水害、湯の時代の旱と、天は歴代の国家に災いを降らしてきた。
垂拱の治という平穏な治世もあつたが、災害を絶無にすることはできなかった。
為政者は、被災者たちを救うことに、注力しなければならなかった。
明治18年乙酉夏6月に、大雨が続き、淀川が暴漲し、茨田郡伊加賀村の堤防が切れ、
摂河諸郡一四五村が没した。水勢は浩々と目の前は際限なく巨大なる水面が広がった。
住民は浸水で逃げ、年寄りや子供は叫んだ。屋根上に乗って水を避け、木に登り救い
を求め、走る者、泣く者、顛（たおれる）者、蹶（つまづく）者で悲惨な状態。
被災地の多くは大坂府下に属す。
府知事建野君は急を聞き、ただちに蹶起（決起）していうには民の命は重い。
ただちに櫻井郡長と土木課員とで、堤防を切る議論をした。
実に6月18日のこと也。翌日正午、知事は数人の幹部職員を率い網島に馳せ支局
（現地対策本部）を起ち上げた。
鎮台（陸軍）将校と協力し役夫千余人を動員し野田の堤防を切り洪水の勢いを殺した。
これにより摂河諸郡の人民は息を蘇らせ、魚に食われて亡くなること(溺死)から免れ
た。
未だかつて、このような偉業はされたことはなかった。

しかし、前の災害が取り除かれたと思ひしや、後患が起きた。その29日、暴風甚だしく、雨の水量が益した。万馬が駆け百雷のようであつた。

堤防が決壊し、余つて氾濫した水は市街に流れ込み市街は水に沈没し、橋梁は悉く（ことごとく）断たれ、その惨禍は甚だしい。

知事は、水の災にあつた民が衣食の不給を鑑みて、糧食を用意し救おうとした。

ここに市井の人民や海外の紳商から衣糧が届き、財物も届けられた。

また大いに工事を起こして堤防を修理し、貧民を救済した。7月からはじまり9月には竣工した。被災し困窮した者が飢餓を免れ得たことも、未だ嘗てなかつた力量によるものであつた。

茨田東成二郡が野田村の堤防を切つて水害を免れさせたのはここ百年余りで3回。

享和二年（85年前）・文化四年（80年前）の水害では、徳庵堤が水没した後に堤を切つたが、今回は先に徳庵堤が水没する前に堤を切つた。これは人命を守り水害を免れようとしたものでその功や効果は歴然で前の倍にあたる。もし堤を切つていなければ、摂河の諸郡が水害を被つただけではなく、それにより波及した被害は計り知れない。

後々の淀川の水災のときは、これ鑑とすべきであろう。今歳水害に罹災した人民は、保護の功德に感謝しここに記念碑を建て末永く後世に伝えることとした。

大水が来て丘陵を襲い 伯禹に非ざれば人は溺れる 舎は水に沈み竈はカエル場所となる 水は床上十尺余り 屋根に乗る者木に登る者 家揃つて楼上に避難す 知事曰く人命は重し 堤防を切り 引いた水から土が現れ 樵や耕作や漁(日常の労務)ができ 顕彰の立派な碑を建てて功績を刻む 民びとにこのような優しさを与えたのは誰だったのか



（浪速区）

浪速区はこれまで台風に伴う高潮により、幾多の水害に見舞われたがなかでも昭和9年(1934)の室戸台風、同25年(1950)のジェーン台風、同36年(1961)の第二室戸台風により、多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和54年秋 大阪市



(大淀区 現:北区)

大淀区はこれまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが中でも昭和9年（1934）の室戸同36年（1961）の第2室戸台風より多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったがこのような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和55年秋 大阪市



(西区)

西区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年（1934）の室戸台風同25年（1950）のジーン台風、36年（1961）の第2室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してここ長堀川跡にこの碑を建立する。



昭和53年 秋 大阪市





（大正区）

大正区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年

（1934）の室戸台風、同25年（1950）のジェーン台風などにより、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

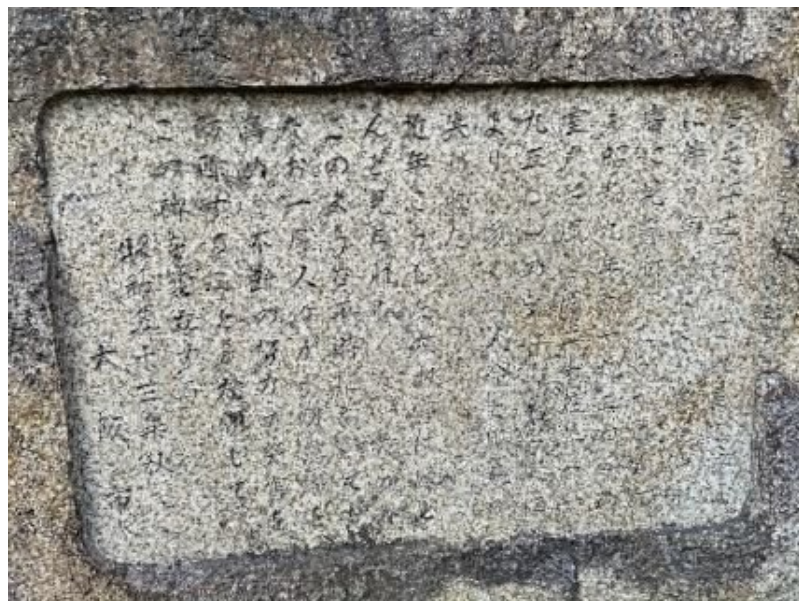
昭和52年 秋 大阪市



（港区）

港区をはじめ西大阪は、これまで高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年（1934）の室戸台風、同25年（1950）のジェーン台風、36年（1961）の第2室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立し、あわせてこの近くに建立されていた風水害記念塔の銘板を右に設置する。

昭和52年 秋 大阪市



（住之江区）

住之江区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年（1934）の室戸台風、昭和25年（1950）のジェーン台風により、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層、人々が水防意識を高め不断的努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和53年秋 大阪市



（住吉区）
住吉区は、これまで幾多の水害に見舞われてきた、なかでも明治元年（1868）の大水害では当時の住吉郡遠里小野村の大和川堤防が決壊し多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてなお一層人々が水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和55年秋 大阪市



（此花区）

此花区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和25年

（1950）のジェーン台風、同36年（1961）の第二室戸台風などにより多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断的努力で災害を防除することを願ってこの碑を建立する。

昭和52年秋 大阪市



(福島区)

福島区は台風に伴う高潮によって水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934)の室戸台風、昭和25年(1950)のジェーン台風、昭和36年(1961)の第二室戸台風によって多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高めることを念願してこの碑を建立する。



昭和53年秋、大阪市

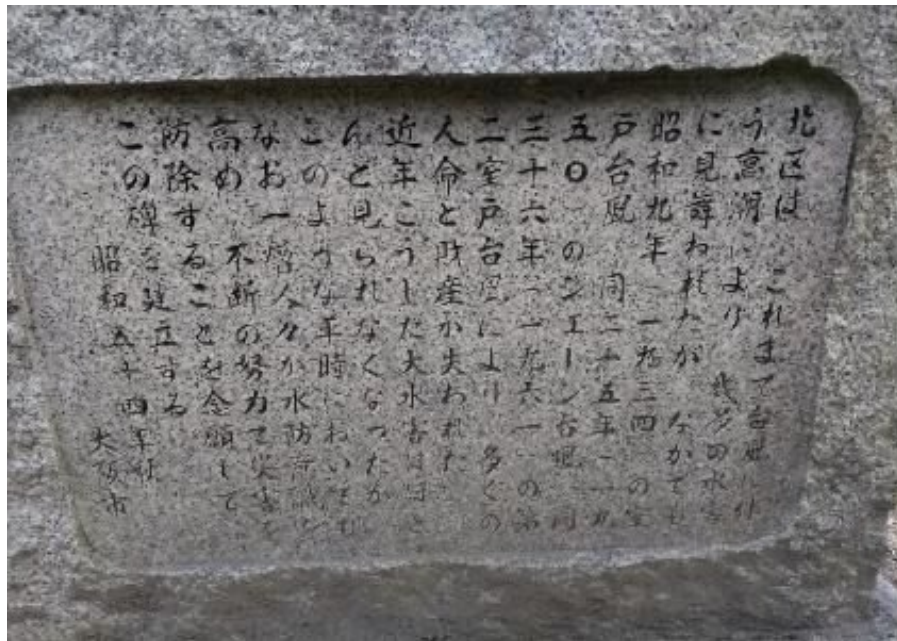


(西淀川区)

西淀川区は、高潮などによりこれまで幾多の水害に見舞われてきた。なかでも昭和9年(1934)の室戸台風、昭和25年(1950)のジェーン台風などによる被害は大きく、多くの人命と財産が失われた。近年防潮堤工事が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお一層人々が水防意識の高揚をはかり水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。



昭和51年秋、大阪市



(北区)

北区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934)の室戸台風、同25年(1950)のジェーン台風、昭和36年(1961)の第二室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和54年秋、大阪市



(淀川区)

淀川区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治29年（1896）の油津村大字新在家の神崎川堤防決壊は区内全域に大きな災害をもたらし当地（旧称堀）の旧家に救助所が設置されたという。

近年河川改修が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお、一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念頭してこの碑を建立する。

昭和51年秋 大阪市



(東淀川区)

東淀川区はこれまで幾多の水害に見舞われてきた。

なかでも大正6年(1917)の神崎川下新庄樋(ここより北200m)の決壊は区内をはじめ淀川河口に至る全域に大きな災害をもたらした。

近年河川改修が進みこうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。

昭和51年秋 大阪市

4 珍しい自然災害伝承物

4-1 一つの敷地に4箇所もの標示石が置かれている

●大阪市 北区 造幣局 洪水標示石



洪水標示石



↑ 敷地内一般立入不可のため、守衛室配備のパンフ等から引用

(碑文 背景)

明治18年（1885）の淀川左岸決壊時における浸水深を敷地内4箇所の
標示石に明示

4-2 京都府域における明治18年水害の自然災害伝承物

大阪府域では、20箇所以上探せたが、京都府域ではこの1箇所しか見つけることができなかった。

●京都市 伏見区 水垂墓地 水害



戸長 勝山弥兵衛顕彰碑

(碑文 要約)

当時の戸長 勝山弥兵衛顕彰碑

明治18年（1885）の水害の時、桂川に面した水垂地区は堤防が決壊して、27戸が流失する大きな被害となった。この時流失を免れた家は、いち早く建具をはずし、土塁を落として、水流を受け流していたため無事であった。こうした災害への知恵はたびたび水害に見舞われてきた地域ならではの文化である。

舟運が盛んな地域であったため、被災後しばらくは舟での生活を送った。流失した家財道具は、桂川を逆流して上流域に流れ着いたものは、送り返されてきたものもあった。

4-3 一つの石碑に4回の洪水水位が刻まれ比較されている

○大津市酒井神社明治二十九年洪水石標（明治32年（1899）建立）



（碑文 要約）

明治29年(1896)9月3日から12日の間に1008ミリの雨量を記録し県内で死者・行方不明者34名などの大きな被害をもたらしている。

琵琶湖が増水し、下阪本村では全村700戸のすべてが浸水した。

碑にはこのときの水位とともに、万延元年(1860)、明治元年(1868)、明治18年(1885)の水位も記録されている。



(碑文 原文)

一面 洪水位明治二十九年九月十二日

**水量最高一丈二尺八寸
常水位二尺七寸**

**二面 明治十八年七月三日洪水位
廿九年ヨリ三尺五寸八分低**

**三面 明治元年五月二十日洪水位
廿九年ヨリ一尺八寸低**

**四面 万延元年五月十七日洪水位
廿九年ヨリ三尺七五寸低**

一つの石碑に、複数年次の水位が刻まれ、比較されている事例は珍しい。



4-4 遠く離れた濃尾地震での大阪市内での被害の伝承

●大阪市 此花区 正蓮寺



犠牲になられた職工・女工さん22名の慰霊碑。『N紡績会社震災犠牲の慰霊碑』

明治24年（1891）10月28日午前6時37分、遥か離れた岐阜を震源とする地震が、大阪で多くの犠牲者を出してしまった。

N紡績会社工場の倒壊

濃尾地震での大阪府の犠牲者24名のうちの22名は西成郡南伝法村（現大阪市此花区）のN紡績会社（現在のUR 伝法団地付近）で働いていた職工・女工さん。

N紡績会社は、明治21年（1888）開業、据付錘数一万錘以上の大工場で、西洋式の新築後、間もなく倒壊。倒壊した第二工場は90mに36mのレンガ造三階建。昼夜交代制で、地震が起こった6時37分は、前夜からの勤務と昼間勤務の人とが交代した直後。



当時567名の労働者が工場内にいたが、地震で工場の屋根が落ち、さらに三階の壁が内部に向けて倒れ、多くの職工・女工さんたちが瓦礫の下敷きとなった。

大阪のように地震の揺れがそれほど強くない地で倒壊したのは、工場の二階三階の床横木は壁の切り込みに載せてあるだけで、建物が振動するに連れて壁から脱落してしまったとの説もある。

大阪府内の震度は弱いところで4、強いところでも6弱と推定。

翌年、震災予防調査会が発足し、「被害の軽減」を任務として、具体的には「耐震建築の方法」と「地震予知の方法」を開発することに力を注がれた。

レンガ造建物の非耐震性が認識され、耐震性・耐火性を併せ持つ鉄筋コンクリート造建築が注目されるようになった。

大正12年（1923）に起こった関東大震災でも、再びレンガ造建築に多くの被害が出て、以後、鉄筋コンクリート造建築が主流となった。

承継法人の現紡績企業様におかれては、毎年お盆の時期にお参りされておられるとのことである。

石碑の文字の下には「震災」という文字が刻まれている。

4-5 自然災害伝承物の場所を表示した施設

●滋賀県 大津市 瀬田 琵琶湖の洪水の歴史



滋賀県内10箇所の自然災害伝承物の
画像と場所を地図にて表示

西光寺の拡大地図も記載
「西光寺はすぐ近くです(徒歩5分)」



西光寺の石碑
明治29年(1896)9月3
日から12日の間に1008
ミリの雨量を記録し県内
で死者・行方不明者34
名などの大きな被害をも
たらしている。
碑にはこのときの琵琶湖
大洪水時の水位が横線で
刻まれている。

4-6 疫病についての自然災害伝承物

●大阪市 天王寺区 一心寺 流行感冒



(碑文 原文)

大正八九年流行感冒病死者群霊

大正十一年十二月

施主 薬剤師 小西久兵衛 小西吉栄

(碑文 背景)

建立したのは大阪・道修町で薬種業を営んでいた小西久兵衛・吉栄夫妻。栄養剤の販売で財を成した小西氏は神社に拝殿や鳥居などを寄進しているが、この慰霊碑を建立した経緯は不明。

同氏が設立した大阪女子商業学校（現あべの翔学高校）を運営する学校法人朝陽学院が経過を調べられているが記録がなく不明。

大流行の異常事態は当時神戸で明治から戦前まで発行されていた神戸又新（ゆうしん）日報の紙面には、

「野焼を望む喪家 遺骸の野曝しに懲りて」、

「屍骸の鉄道輸送 神戸駅から日に五六柩」

という記載もある。

●京都府伊根町 丹後大仏 流行感冒（スペイン風邪）犠牲者の伝承



（碑文 要約）

明治33年（1900）ここ筒川の地に建設された筒川製糸工場は、順調な発展を遂げ、農村経済の発展に著しく貢献していたが、明治42年（1909）工場を焼失し莫大な損失を蒙った。

だが、役職員一同一致団結して工場復興計画に協力し工場を復興させた。大正7年（1918）10月、工場長品川萬右衛門は従業員の慰労のため、全員を引率して東京見物の途に着いたのであるが折り悪く悪性の流行性感冒に見舞われ、帰郷後42名の死者を出すに至った。



工場長品川萬右衛門は、殉職者の慰霊のため、ここに青銅の露天大仏を建立したのであるが、太平洋戦争中鉄類の供出にあい、昭和20年（1945）現在の石仏大仏を再建し今日に至るものである。

なお、大仏の近くには、招魂碑があり亡くなられた方の氏名が記載され、毎年4月8日、殉職者の慰霊のため花祭りが行われる。

この大仏の存在は、一心寺の同じスペイン風邪の供養塔を見つけてから、調査して知ったものである。

4-7 火災に関する伝承物

●南丹市日吉町 火災



(碑文 背景)

貽訓石 (いくんせき)

昭和16年(1941)、山陰線の蒸気機関車のばい煙がかやぶき屋根に燃え移ったことで発生し、100戸を越える民家などが全焼する大火災であった。

大火を教訓に、殿田では「家屋を建築する際は、隣家に面する側は防火設備をする」という条件が付き、外壁の両側に「袖壁」を付けること、屋根の軒に土を塗り込むこと、隣の家屋から二尺(約60センチ)離して建てること、数軒おきに田原川へ避難できて消防車も通れる道を付けることが義務づけられた。

このような防火の工夫は、今でも殿田にて伝承されている。

4-8 水害で流失した橋の材料を使用して石碑としたもの ○亀岡市 矢田天満宮 平和池水害



(碑文 要約)

昭和26年（1951）7月11日、集中豪雨により防水ため池の平和池が決壊した。年谷川に数メートルの小山のような濁流が轟音とともに押し寄せ、上矢田町内では死者17名、流失家屋10戸、耕地流失等の被害が生じた。災害は忘れた頃に来るというので、この災害を次世代に伝えるため、この水害で流失した橋の石材を用いて碑を建立した。本水害について地元区が息の長い伝承活動を継続されている。

4-9 地震でできた断層の自然石を使用して石碑としたもの ○京丹後市 峰山町 峰山小学校 北丹後地震



震央の郷村断層は、天然記念物として保存されており、この割れ目から取り出した自然石を使用して、峰山小学校玄関南に殉難碑震災殉難碑が建立。

碑陰には、昭和2年（1927）3月7日の地震で206名もの園児・児童・生徒と8名の訓導が亡くなったことが刻まれている。

4-10

●室戸台風で被害を受けた大阪市北区の国分寺前の国分寺公園内の 天六地下鉄ガス爆発事故の慰霊碑

て前に毘沙門天王脇士左愛染明王 右觀世音 本尊不動明
なりとぞ靈驗志ば々あらたなりといふ○當寺本願ハ 聖
りし國分寺の其一寺なり荒蕪の後快圓比丘中興して律院と
餘施料の事延喜式および文徳實録にも見へたり又東生郡に
の跡なるべし後人尚考ふべし」
などの混乱、昭和九年の室戸台風により甚大な被害を受け、
二次大戦の大阪大空襲により旧書院門（現山門）を残し寺
有地であった為、大幅に縮小されるも、昭和四十年（19
つとり落慶、昭和五九年（1984年）弘法大師千百五十



国分寺

1970昭和45年（1970）4月8日17時45分大阪市大淀区（現 北区）国分寺付近の谷町線建設現場でガス爆発事故が発生。死者79名、負傷者420名を出す大惨事となった。

建設中の地下構内のガス管が、継手部分を含め約200mにわたって宙吊りとなっていた。建設工事や交通荷重の影響で継手部分が劣化していった。結果、17時15分に継手部分が抜け落ちて都市ガスが噴出した。この区間は開削工法で建設されており、ガス噴出時は覆工板が設置されていた。覆工板が蓋の役目をして地下構内は都市ガスが充満、隙間から地上にも漏れ出た。

たまたま通りかかった大阪ガスのパトロールカーがガス漏れを検知して通報、事故処理車が到着する。この事故処理車が現場で移動しようとエンジンを始動した際にセルモーターの火花が引火、17時39分に発火し、地上に噴出していたガスに着火。自動車が燃えたことにより、野次馬が多く集まりだして付近は多くの人が集まっていた。そして17時45分、何らかの原因で地下に充満していたガスに着火、高さ約10mの火柱とともに大爆発が発生。この大爆発により、付近に敷き詰められていた覆工板（重さ約380kg）約1,500枚と、その上に乗っていた人も吹き飛ばされた。爆発の火柱は、道路両側の家屋に燃え移った。消防による消火活動が行われ、21時40分頃に鎮火した。

「都市災害」という用語が使われるきっかけとなった事故であり、今も毎年大阪ガスやゼネコンの社員がおまいりされておられる。



国分寺公園内の慰霊碑と
国分寺内の供養塔

4-11 古い時代の水害伝承物

●木津川市山城町 泉橋寺 水害



日本一の高さの石造地蔵
高さ4.58m。

(碑文 背景)

正応5年（1292）の洪水の水害横死者の供養を目的として永仁3年（1295）から延慶元年（1308）までの13年かけて作られた。

(木津川市観光ガイドHPから引用・諸説あり)

東大寺を建てていたころ木津川の水運を使って材木を切り出していた。

水が多すぎても少なすぎても、材木はスムーズに運べなかった。ある年、雨が少なく笠置あたりで材木が止まり、水を堰き止めるかたちになってしまった。

下流の田畑は干上がる恐れがあったので、大騒ぎになった。そこで、行基様におすがりすることになった。



翌日から行基様のご祈願が始まった。そして満願の日、あっという間に大雨が降り、みんなは喜んだが、惨事も起こった。

谷間を流れる木津川の急流は激しい流れとなって、川の中で働いていた人を呑み込んでしまった。

行基様は自身の罪のように嘆かれ、お地蔵様を供養することになった。

そんなある日、行基様の枕元にお地蔵様が立たれ、「木津川を見守るために日本一の高さにしてほしい。立っているばかりでは疲れるので座らせてほしい」と言われた。

翌日、行基様は言いつけどおり大きな石を木津川から取り出した。こうして作られたのが、泉橋寺のお地蔵様。

戦火や風雨があるのでお堂を作ろうという人もいましたが、「お堂が無いほうが木津川の流れが良く見えます」とお地蔵様がお断りになった。

4-12 小学校の副読本に掲載されている自然災害伝承物

●大阪府 豊能町 瀧本訓導の碑 土砂災害



よりよい暮らしをめざして
洪水が起きない余野川に

野間口の入り口に大きな碑がたっているのを見つけました。

碑には、「瀧本訓導殉職之地」と書いてありました。

そこで、おじいさんに話を聞いてみました。

写真の碑は、瀧本先生の碑です。

瀧本先生は、今から80年ほど前、今の東能勢小学校の先生をしていました。1938年（昭和13年）7月5日、大雨のとき、子どもを助けようとして、水にのまれて亡くなられたのです。その日、瀧本先生をはじめ9人が亡くなったそうです。

今の余野川しか知らないみなさんは、この豊能町で大水が起これ、たくさん家が流されたり、田畑が土砂にうもれ、何人もの人が亡くなったことなど、とても信じられないことかもしれません。でも、余野川は、昔から今のように立派な堤防があったわけではありません。昔は、川幅もせまく、曲がりくねった、たびたび洪水を起こす川だったのです。



○余野川

←豊能町立小学校副読本 （豊能町教育委員会様から） （碑文 背景）

1938年7月5日の大水害時、野間口では山地が崩壊、山津波が押し寄せ、土砂が流出し、道路・家屋を押し流した。

東能勢村だけでも9人の死亡者を出した。

その9人の中に前年度箕面尋常高等小学校より東能勢尋常高等小学校へ主席訓導として赴任されていた瀧本撰治訓導（当時33歳）が含まれていた。

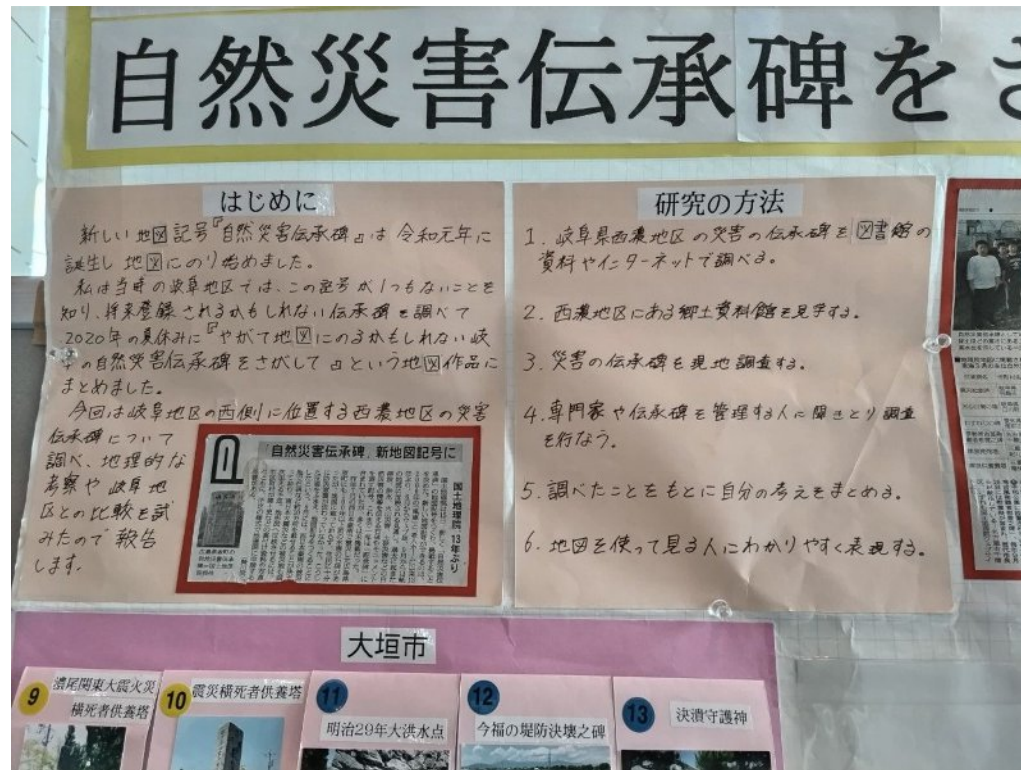
瀧本訓導は児童を家庭に送り、その帰路、担任児童の一家の危難を見、救助に向かい殉職。

「大阪毎日新聞」には『あゝ殉職・瀧本先生山津波に敢然・教え子離さず』の見出しで同訓導の殉職を報じた。同年7月18日に学校葬が行われた。

4-13 第26回全国児童生徒地図優秀作品展での展示

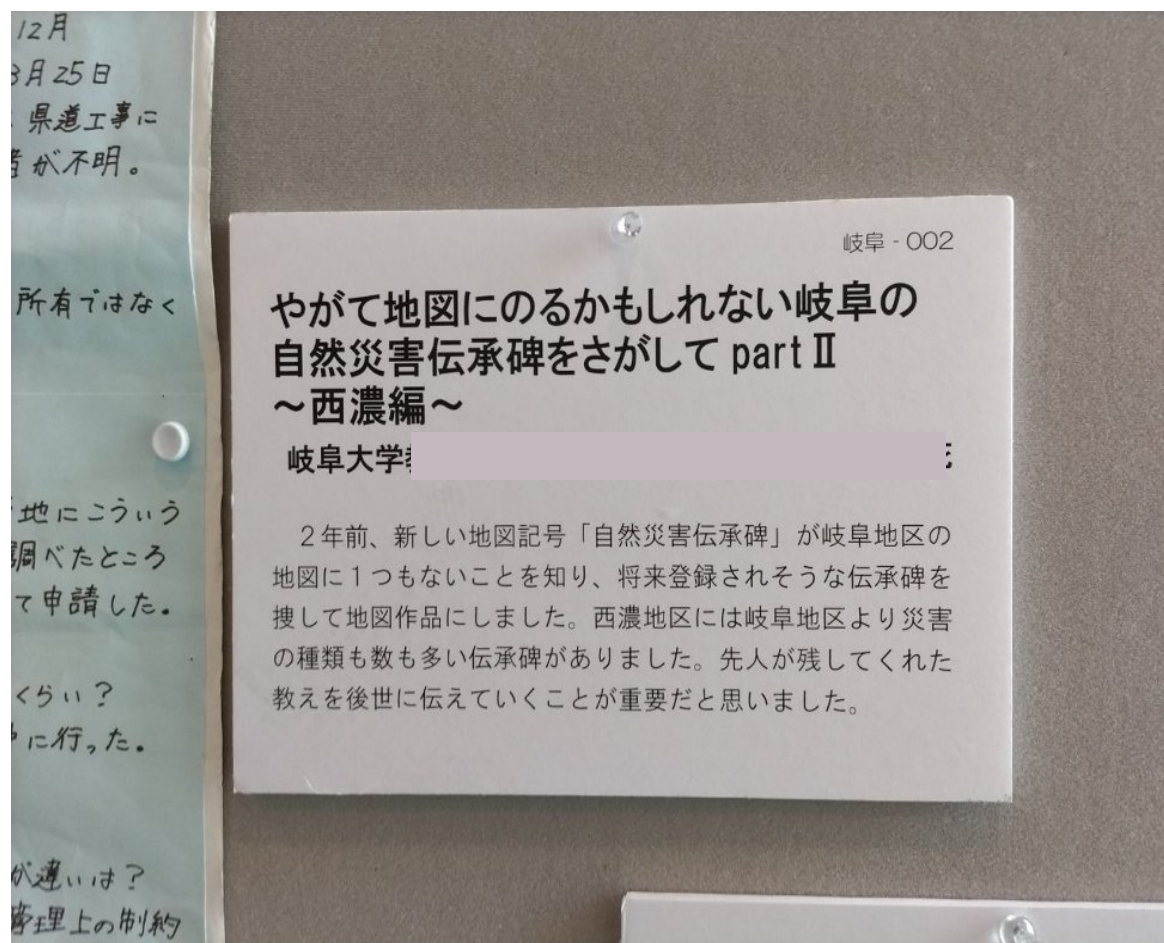
○大阪市 NHK大阪放送局ロビー 期間限定展示（令和5年 1～2月）

【主催】全国児童生徒地図作品展連絡協議会、国土地理院



展示されていた小中学校7年の生徒の素晴らしい作品に感動した。

「やがて地図にのるかもしれない岐阜の自然災害伝承碑を探してpartⅡ～西濃編」



教頭先生に訪ねると「生徒が独自で研究し、作成された」とのこと。
保護者様からは、「普通に夏休みの宿題を作成して提出していただだけ」、「河川事務所、砂防事務所、市役所に調査に伺うととても親切に対応いただけた」、「過去には、岐阜の陸間マップも作成していた」とのこと。

国土地理院
院長賞

やがて地図にのるかもしれない 岐阜の自然災害伝承碑をさがして

●動機と感想

新しい地図記号「自然災害伝承碑」が岐阜市の地図にはのっていないことを知り、今後登録されるかもしれない過去の災害の伝承碑について調べようと思いました。

岐阜の地図で28の災害の伝承碑を見つけました。その内20は濃尾地震にかかわるもので、大変な被害をもたらしたことがわかりました。「災害はいつか必ず起こる。」ということを忘れないようにしようと思いました。

●講評

新しい地図記号「自然災害伝承碑」が令和元年に誕生し、国土地理院のウェブページや地形図に掲載が始まりました。この作品は、まだ国土地理院の地図には載っていない岐阜地区の自然災害伝承碑を現地調査や文献で調べ、その結果を地図に分かりやすく表現したものです。そして、岐阜地区には濃尾地震に関する碑が多く、また様々な場所に建てられていることに気が付きました。濃尾地震の被害の大きさを、地図を活用して知ることができた作品です。



「やがて地図にのるかもしれない岐阜の自然災害伝承碑を探して」では、小中学校5年生の時に国土地理院院長賞を受賞された。

5 まとめ

自然災害伝承物の現地調査過で得たもの

- ①被災された先人の犠牲・功德・復興への意気込み
- ②現地を知るための多くの自治体・学校の職員の皆様との出会いと皆様の豊富な知識と探求心
- ③現地を案内いただいた地元の方々、校長先生たちの伝承教育へのご熱意
- ④沢山の方々の過去、現在進行形の調査・伝承のご努力
- ⑤芸術、歴史、地理、教育など多くの分野の見聞開拓と人々とのつながり
- ⑥道路・河川・農地など現在のインフラの歴史の掌握
- ⑦ひとつの石碑が、点から線になり面へとなり広がっていく
- ⑧土木や気象、地理学の世界の歴史の長さとお深さと魅力の体感

先人のご尽力が現在、未来の防災・減災につながりますように。

これまで、幾多の災害で犠牲になられました方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

これからも気象異変は起こり得るでしょうが、被害が最小限に留まることを祈念申し上げます。

画像は、記載のないものは、著者撮影、碑文の要約は「参考」である。

以下、参考文献

○「川の碑」 川の碑編集委員会(山海堂)

○「天災から日本史を読み直す-先人に学ぶ防災」磯田道史氏(埼玉福社会)

○「濁流が走る」新聞記事にみる淀川・大和川の洪水（淀川・大和川洪水予報連絡会）

○土木史研究第15号1995年8月 琵琶湖の歴史洪水と瀬田川浚渫についての土木史的研究

竹林征三氏 今井範雄氏

○京都歴史災害研究第11号（2010） 17 ～ 29室戸台風、大阪での暴風・高潮の被害 長尾武氏

○京都歴史災害研究第15号（2014） 1 ～ 10近代大阪人の災害意識と地震時における避難行動 飯田直樹氏

○京都歴史災害研究第18号（2017） 17 ～ 27明治18年の淀川洪水と北河内 片山正彦氏

○京都歴史災害研究第19号（2018） 13 ～ 24室戸台風による京都市とその周辺の学校被害と記念碑

植村善博氏

○京都歴史災害研究第20号（2019） 43 ～ 51 大阪府における明治 18年「伊加賀切れ」に関する記念碑

について 木谷幹一氏

○歴史地震第31号（2016） 41～51 伊賀上野地震で決壊した奈良古市村のため池の位置推定 木戸崇之氏

ご清聴ありがとうございました。

今後とも皆様方のご指導どうぞよろしく
お願い申し上げます。